取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SPADE

4 運転

5 室内装備・機能

1 2 3 4 5 6 7 8

5-4. 収納装備

5-5. その他の室内装備の使い方

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

6-2. 簡単な点検・部品交換

7 万一の場合には

8 車両情報

さくいん

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
 異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
 電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントウインドウガラス、および運転席・スライドドアのドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。
・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

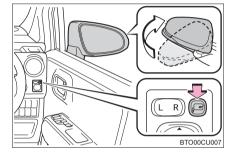
本書の見方

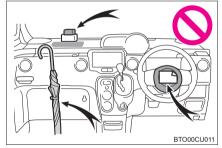
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

INPGS035

■ 取り付け位置から探す

INPGS037

■ 症状や音から探す

INPGS038

■ タイトルから探す

INPGS039

イラスト目次

■ 外観

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 279, ワット数：P. 362）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ インストルメントパネル

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ スイッチ類

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ 室内

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 58）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

運転する前に

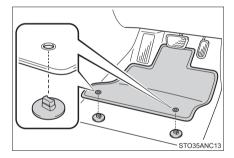
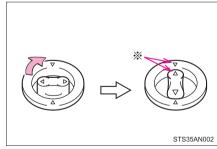
点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する
※ △マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 103）

② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 103）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 110）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 121, 122）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

BTO11CU001

- 肩部ベルトを肩に十分かける

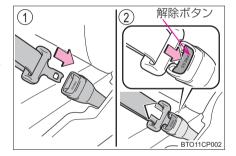
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

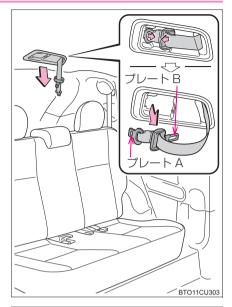
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

着け方・はずし方（リヤ中央席を除く）

BTO11CP002

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

着け方（リヤ中央席）

1 プレートを取り出す

2 ベルトを固定するには、プレートA、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B

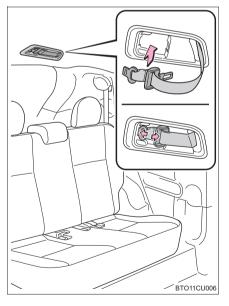
はずし方・格納の仕方（リヤ中央席）

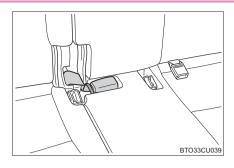
1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する

2 キー、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

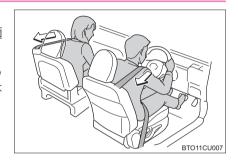
3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

4 バックルをシートクッションの穴に格納してください

BTO33CU039

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

BTO11CU007

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。
また、助手席シートベルトが引き出せないときは、一度、助手席背もたれを前に倒すとシートベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

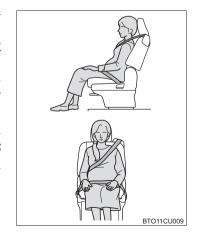
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- リヤシート左右席シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないこと
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 26)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■**お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■助手席シートベルトについて

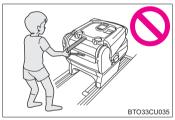
●助手席シートうしろのベルト穴にごみや異物などを入れないでください。
ごみや異物などが入ると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です

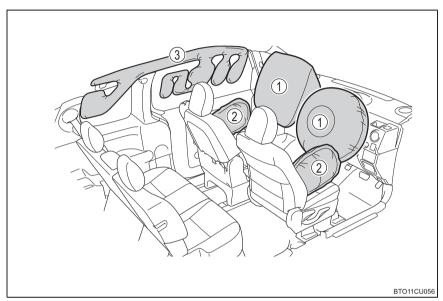
●助手席シートうしろのベルト穴付近に足などをのせないでください。
プリテンショナー付きシートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあり危険です。

●助手席の背もたれをリクライニングさせた状態で、ベルトが巻き取りにくいときは、背もたれを起こしてください。

●炎天下での駐車後は、シートベルトのプレートが熱くなり、やけどをするおそれがあり危険です。熱くないことを確認してから使用してください。

●シートベルトを背もたれうしろのベルト穴から引っ張り出したり、ベルトにものを引っ掛けたりしないでください。シートベルトがロックしたまま引き出せなくなります。
シートベルトがロックしてしまったときは、次のように操作してください。

・背もたれが起きた状態でベルトが引き出せないときは、いったん背もたれを前に倒します。
・テーブル状態でベルトがロックして、背もたれが起こせないときは、背もたれを途中まで起こしたあと、いったん倒し、その後、起こします。または、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ★
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ★
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 42)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

BTO11CU057

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

BTO11CU058

●SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

BTO11CU059

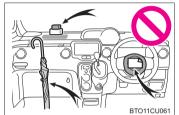
警告

■SRS エアバッグについて

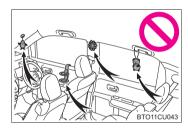
●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

BTO11CU060

●ダッシュボード・助手席アッパーボックスのフタの上・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

BTO11CU061

●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P. 328）

BTO11CU043

警告

■SRS エアバッグについて

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ非装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■**SRS エアバッグが作動すると**

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●SRS　カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

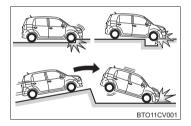
●前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

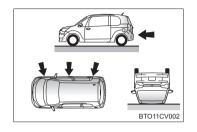
●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

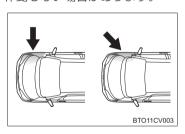
●横転

BTO11CV002

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

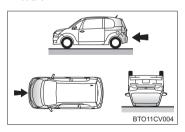
●斜めからの衝撃

BTO11CV003

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

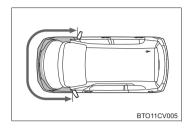
●横転

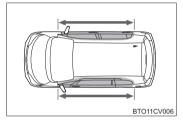
BTO11CV004

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

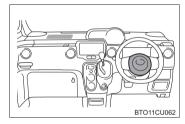
次のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

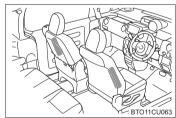
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

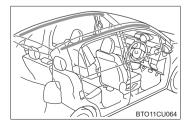
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO11CV005

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO11CV006

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO11CU062

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO11CU063

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO11CU064

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

● お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P. 42)
● 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
● 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P. 89)・ウインドウロックスイッチ(→P. 124)をご使用ください。
● 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

● お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
● 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→P. 50)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は 2006 年 10 月 1 日施行の保安基準に適合した ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0：10kg まで
グループ 0 $^{+}$：13kg まで
グループⅠ：9 ～ 18kg
グループⅡ：15 ～ 25kg
グループⅢ：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の 3 種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。
※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 +に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 +、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kgまで）	×	U	×
0^{+}（13kgまで）	×	U	×
Ⅰ（9～18kg）	うしろ向き ×	U	×
	前向き UF		
Ⅱ（15～25kg）	UF	U	×
Ⅲ（22～36kg）	UF	U	×

● 上記に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置	
			リヤシート左右席	
			ヘッドレスト調整式	ヘッドレスト非調整式
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※、IL2	IL2
0 ⁺（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※、IL2	IL2
	D	ISO/R2	IL2	IL2
	C	ISO/R3	IL2	IL2
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF、IL2	IUF、IL2
	B1	ISO/F2X	IUF、IL2	IUF、IL2
	A	ISO/F3	IUF、IL2	IUF、IL2
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×	×

● 上記に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A　から　G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO　G-Child　ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO　G-Child　ISO leg」に適しています。

×：　ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0⁺（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- ●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- ●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 44) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 45）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

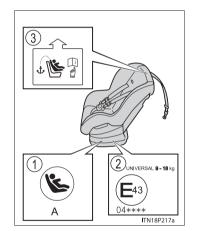
（例 1）：質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

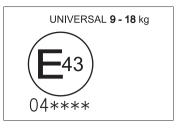
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

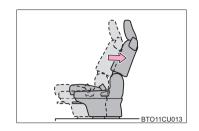
③ トップテザー（→P. 51）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●シートをいちばんうしろにさげる

●背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置まで起こし、10 段目の固定位置まで調整する

① 1 段目

② 10 段目

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

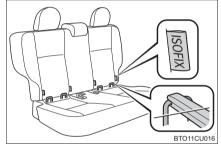
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 52)

BTO11CU015

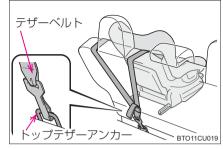
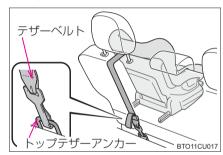
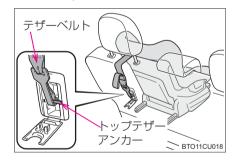
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 53)

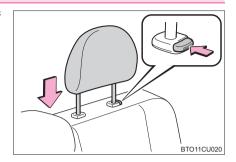
リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

BTO11CU016

トップテザーアンカー（→P. 53）

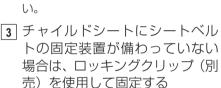
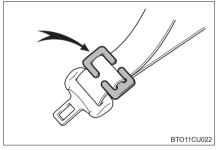
テザーベルトを固定するときに使います。

トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

▶ FF 車（非調整式ヘッドレスト装着車）

▶ FF 車（調整式ヘッドレスト装着車）

▶ 4WD 車

シートベルトで固定する

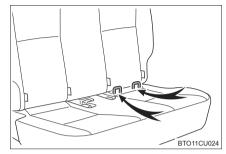
1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P. 110）★

2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番：73119-22010)

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

▶ 非調整式ヘッドレスト装着車

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

BTO11CU024

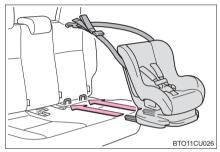
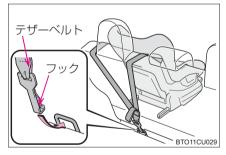
2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

BTO11CU026

3 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

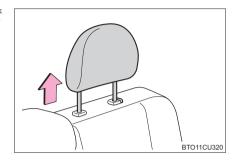
テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

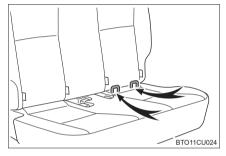
BTO11CU029

4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

BTO11CU031

▶ 調整式ヘッドレスト装着車

1 リヤシートリクライニング調整機構装着車は、背もたれを直立（ストライカ A で固定）状態にする（→P. 106）

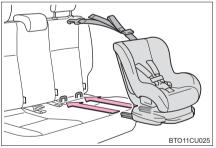
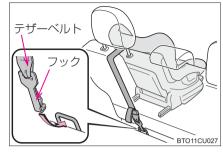
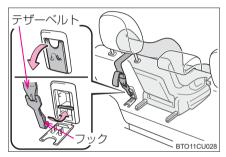
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる（→P. 110）

3 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

5 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

▶ FF 車

▶ 4WD 車

6 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

⚠警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

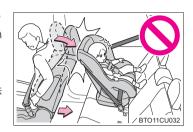
警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

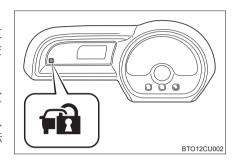
排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム★

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

エンジン スイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティー表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジン スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティー表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

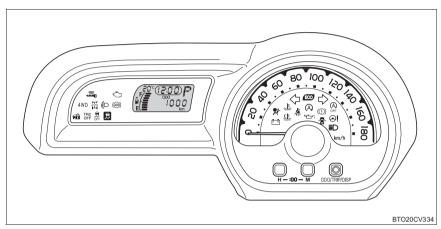
システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

メーターの見方 2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

※ グレードなどによりスピードメーターの形状は異なります。

警告灯

システム異常などを警告します。

※ ブレーキ警告灯
（→P. 309）

※
充電警告灯（→P. 309）

※
油圧警告灯
（→P. 309）

※
エンジン警告灯
（→P. 310）

※ SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→P. 310）

※
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯（→P. 310）

※ パワーステアリング警告灯
（→P. 310）

※
高水温警告灯
（→P. 309）

※ 4WD 警告灯★
（→P. 310, 311）

※ ディスチャージ
ヘッドランプ
オートレベリング警告灯★
（→P. 310）

※ Stop & Start キャンセル
表示灯★（→P. 310）

半ドア警告灯（→P. 311）

※
スリップ表示灯
（→P. 310）

（黄色／
緑色）
スマートエントリー＆
スタートシステム表示灯★
（→P. 310, 312）

シートベルト非着用警告灯
（→P. 311）

燃料残量警告灯
（→P. 311）

※ 作動確認のためにエンジン スイッチを“ON”★またはイグニッションONモード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P. 149)

※1
エコドライブ
インジケーターランプ
(→P. 130)

ハイビーム表示灯
(→P. 152)

※1
Stop & Start 表示灯★
(→P. 164)

※1
4WDオートモード表示灯★
(→P. 171)

※1
Stop & Start キャンセル
表示灯★ (→P. 166)

※1
VSC OFF 表示灯
(→P. 174)

※1
スリップ表示灯
(→P. 173)

※1
TRC OFF
TRC OFF 表示灯
(→P. 173)

セキュリティー表示灯★
(→P. 60)

シフトポジション表示灯
(→P. 147)

(緑色)
スマートエントリー&
スタートシステム表示灯★
(→P. 141)

※2
低水温表示灯

※1 作動確認のためにエンジン スイッチを"ON"★またはイグニッションONモード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

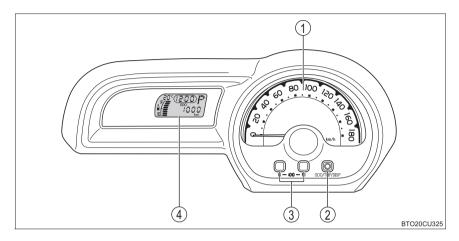
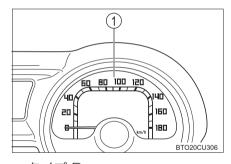
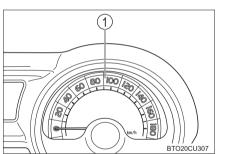
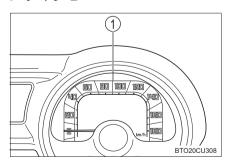
⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

計器類

▶タイプ A

▶ タイプ B

▶ タイプ C

▶ タイプ D

① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／マルチインフォメーションディスプレイ表示の切りかえができます。

③ クロックセットボタン

→P. 239

④ マルチインフォメーションディスプレイ

時計や外気温、走行に関する様々な情報を表示します（→P. 67）

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→P. 309）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 349）

■メーターまわりの清掃をするときは

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“LOCK”にしてください。
“ACC”または、“ON”のままメーター内のスイッチを押してしまうと時計やマルチインフォメーションディスプレイ表示をリセットしてしまうなどのおそれがあります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチを OFF にしてください。
アクセサリーモードまたは、イグニッション ON モードのままメーター内のスイッチを押してしまうと時計やマルチインフォメーションディスプレイ表示をリセットしてしまうなどのおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

● 時計表示

時刻を表示します。

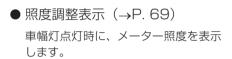
● トリップインフォメーション（→P. 68）

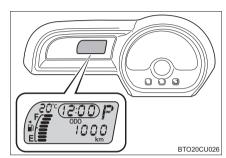
オドメーターやトリップメーター、航続可能距離、燃費などを表示します。

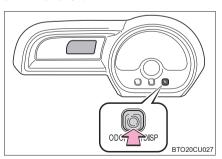
● 外気温表示

外気温を表示します。
− 40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

● 照度調整表示（→P. 69）

車幅灯点灯時に、メーター照度を表示します。

● 燃料計

燃料残量を示します。

表示の切りかえ

表示切りかえボタンを押すごとに切りかわります。

トリップインフォメーション

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

表示中に表示切りかえボタンを長押しすることで、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面に切りかわります。(→P. 70)

■ トリップメーター A※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

■ トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター B の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

※区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ アイドリングストップ時間★

エンジン スイッチを“ON”★から“LOCK★、またはイグニッションON モード★から OFF★にするまでのアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ 総アイドリングストップ時間★

リセットしてからのアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。
- リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。
- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

給油のあとはエンジン スイッチを“LOCK”★、または OFF★にしてください。万一、エンジン スイッチを“LOCK”★、または OFF★にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

照度調整表示

車幅灯点灯時にメーターの照度を表示します。

表示中に表示切りかえボタンを長押しすることで、メーターの照度を調整できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面

EcoOFF

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面表示中に表示切りかえスイッチを押します。

エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面を表示させるには、オドメーター表示中に表示切りかえボタンを 5 秒以上押します。
カスタマイズ後は表示切りかえボタンを2秒以上押して、オドメーター画面にもどります。

知識

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ●外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- ●平均燃費
- ●航続可能距離

■カスタマイズ機能

エコドライブインジケーターランプの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 366）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

各部の操作 3

キー

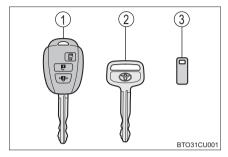
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

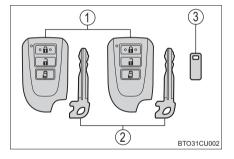
① キー（ワイヤレス機能装着）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 84）

② キー（ワイヤレス機能非装着）

③ キーナンバープレート

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

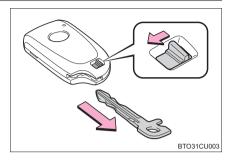
① 電子キー
- スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→P. 75）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 84）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

BTO31CU003

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドしてキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 342）

知識

■キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 認証マークを削らないでください。認証マークのないものの使用は禁止されています。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

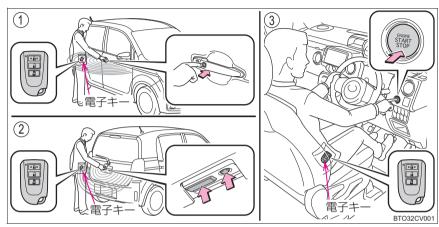
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したとき

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム★

機能概要

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

① ドアを解錠・施錠する　（→P. 76）

② バックドアを解錠・施錠する　（→P. 76）

③ エンジンを始動する（→P. 141）

知識

■作動の合図

ドアの解錠・施錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

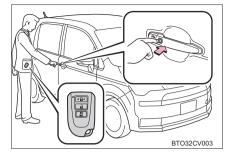
セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

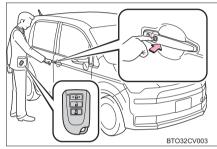
ドアの解錠・施錠（運転席ドアハンドル・スライドドアハンドル）

ロック／アンロックスイッチを押して解錠する

スイッチを確実に押してください。

BTO32CV003

ロック／アンロックスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

BTO32CV003

バックドアの解錠・施錠

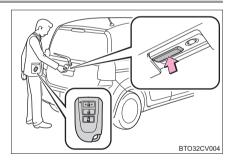
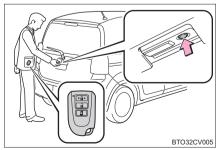
バックドアオープンスイッチを押して解錠する

スイッチを確実に押してください。

BTO32CV004

ロックスイッチを押して施錠する

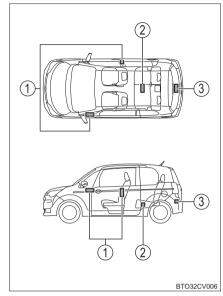
スイッチを確実に押してください。

BTO32CV005

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

① 車内外アンテナ

② 車内アンテナ

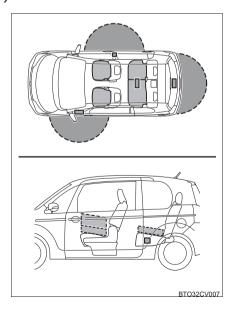
③ ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

（濃い灰色の円）：ドアの解錠・施錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

（薄い灰色の円）：エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

運転席シート座面から高さ 50cm 以内、助手席シート座面から高さ 15cm 以内、リヤシート座面から高さ 15cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。

警告灯が点灯した場合、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 312)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と1 回鳴る 車外から“ピー”と5 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーがＰ以外の状態でエンジン スイッチを OFF にせず運転席ドアを開いた	シフトレバーをＰにする
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジン スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジン　スイッチをOFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池あがりを防止したいときは節電機能に設定してください。節電機能は次の操作で設定できます。

電子キーの [施錠ボタン] を押しながら、[解錠ボタン] を2回押し、電子キーのインジケーターが4回点灯することを確認します。

●節電機能の設定中はスマートエントリー&スタートシステムを使用できません。

●節電機能を解除するには電子キーのいずれかのボタンを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法:→P. 342)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末(PDA など)
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの解錠･施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合

●電子キーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→P. 77）

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子キーがある場合でも、電子キーを検知し、解錠されることがあります。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチが押され、ドアが解錠・施錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車室内または車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

■施錠時の留意事項

●電子キーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、解錠･施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして高圧な水をドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。

●ドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、ロック／アンロックスイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●ロック／アンロックスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●ドアハンドル上のロック／アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック／アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●電子キーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、解錠・施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ロック／アンロックスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●ロック／アンロックスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→P. 78）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの解錠・施錠：→P. 342

●エンジンの始動：→P. 343

●節電機能が設定されている：→P. 79

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 〜 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 313）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたとき

→P. 268

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P. 364）

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→P. 84, 342）

●エンジンの始動・エンジン スイッチのモード切りかえ：→P. 343

●エンジンの停止：→P. 142

警告

■電波がおよぼす影響について

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車内外アンテナ・車内アンテナ・ラゲージルーム外アンテナ（→ P. 77）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを解錠・施錠できます。

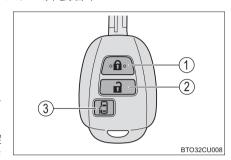
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

③ パワースライドドア開閉
（約 1 秒長押し）

ドア解錠時に作動させることができます。

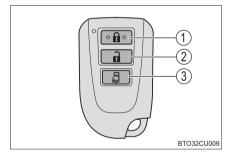
販売店で設定することにより、施錠時でも開作動させることができます。（→P. 366）

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

③ パワースライドドア開閉
（約 1 秒長押し）

ドア解錠時に作動させることができます。

販売店で設定することにより、施錠時でも開作動させることができます。（→P. 365）

知識

■作動の合図

ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■予約ロック機能

スライドドアを除くすべてのドアが閉まっている状態で、パワースライドドアが自動閉作動中にワイヤレスリモコンで施錠操作を行うと、スライドドアを除くすべてのドアが施錠され、スライドドアも閉まると同時に施錠されます。

■解錠操作のセキュリティ機能

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 75

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

- ●ワイヤレスリモコンの電池が消耗しているとき
- ●近くでテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- ●無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- ●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 79

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアの解錠・施錠：→P. 87

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ドアの解錠・施錠：→P. 342

■電池の消耗について

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・ワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 82

■電池が切れたとき

→P. 268

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 365, 366）

⚠注意

■予約ロック機能について

予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、ワイヤレスリモコンを車内にもどすと、車内にワイヤレスリモコンが閉じ込められます。
予約ロック機能を使用するときは、必ずワイヤレスリモコンを携帯した状態で行ってください。

運転席側ドア（フロントドア・リヤドア）

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

→P. 75

◆ ワイヤレス機能

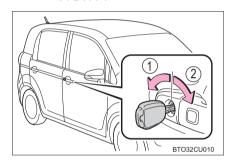
→P. 84

◆ キー（運転席）

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

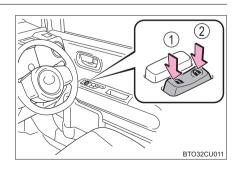
① 全ドアを解錠する
② 全ドアを施錠する

BTO32CU010

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→P. 342）

◆ ドアロックスイッチ

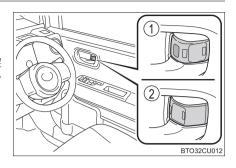
① 全ドアを解錠する
② 全ドアを施錠する

BTO32CU011

★：仕様により異なる装備やオプション装備

◆ ロックレバー

① ドアを解錠する

② ドアを施錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

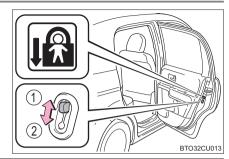
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター（リヤ席ドア）

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

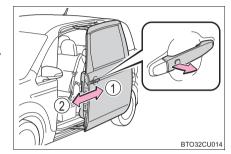
ドアの解錠／施錠

ドアハンドルやパワースライドドアスイッチ、ワイヤレス機能を使って開閉することができます。

◆ スライドドアハンドル

① 開く

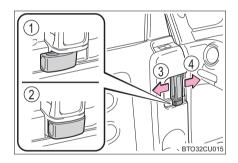
② 閉じる

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

◆ インサイドドアハンドル、ロックレバー

① 解錠

② 施錠

③ 開く

④ 閉じる

◆ ワイヤレス機能

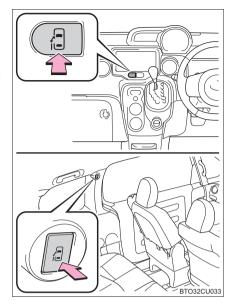
→P. 84

◆ パワースライドドアスイッチ

スイッチ（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

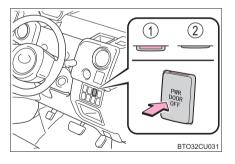
BTO32CU033

パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

①ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

②OFF

BTO32CU031

知識

■給油口ストッパー

給油口が開いているときは、パワースライドドアは作動しません。

■中間ストッパー

●スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）

●中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、ドアガラスおよび給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

●エンジン スイッチが "LOCK"★または OFF★になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●スライドドアのドアロックが解錠されている

●給油口が閉じている

●エンジン スイッチが "ON"★またはイグニッション ON モード★のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・ シフトレバーが P のとき
・ パーキングブレーキがかかっているとき
・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■パワースライドドアの作動について

●パワースライドドアメインスイッチがONのとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。

●作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、連続して３回以上反転作動させると、ブザーが鳴り、その位置で作動を停止します。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止する場合があります。

●連続して２回以上異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 12 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

■給油口開警告ブザー

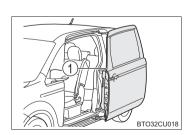
パワースライドドア開閉中に給油口を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 12 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサー（①）が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

■カスタマイズ機能

パワースライドドアに関する設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 364）

警告

■**走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず着用する

●すべてのドアを施錠する

●すべてのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■**お子さまを乗せているときは**

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にパワースライドドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。（パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません）

■**スライドドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。

●人がいるときは安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

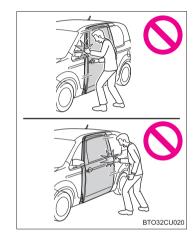
●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

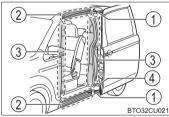
●スライドドアが給油口ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

⚠警告

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないように注意してください。

●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●スライドドアのアーム（①）やレール（②）やピラー部（③）および配線部（④）には、手足をかけないでください。

警告

■スライドドアイージークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→P. 92)
- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件(→P. 92)を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
  この場合、坂道などの傾斜した場所ではスライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

警告

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを“ON ”★またはイグニッション ON モード★にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

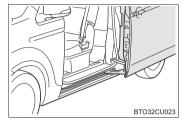
⚠注意

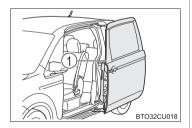
■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開けることができます。

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

→P. 75

◆ ワイヤレス機能

→P. 84

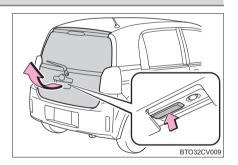
◆ キー

→P. 87

◆ ドアロックスイッチ

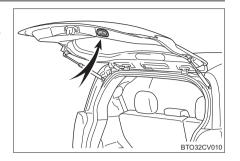
→P. 87

車外からバックドアを開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

★：仕様により異なる装備やオプション装備

バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行する前に**

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■**走行中の留意事項**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
  急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

BTO32CV011

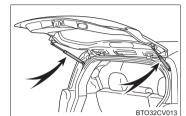
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。
  バックドアの重量が重くなり、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。

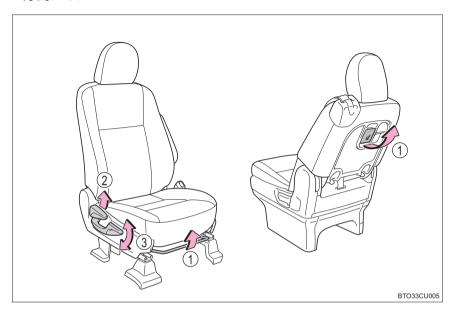
注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

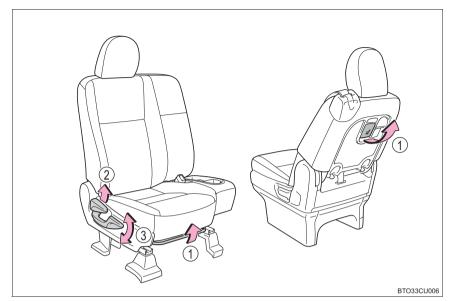
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

調整のしかた

▶ 分割タイプ

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）

▶ ベンチタイプ

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）

警告

■**シートを調整するとき**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**リクライニング調整について**

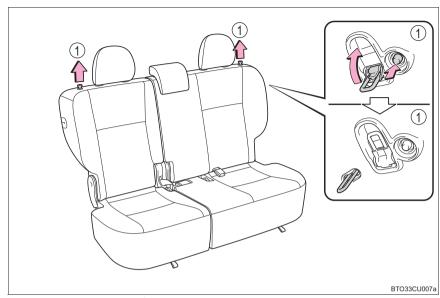
走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**前後調整の操作をするとき**

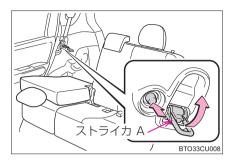
足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

リヤシート

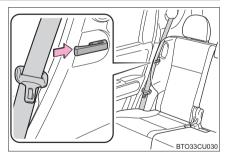
① リクライニング調整★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

リクライニングのしかた★

1 シートを前倒しする(→P. 106)

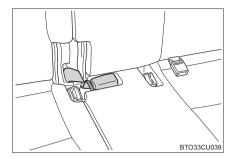
2 シートバックストライカ解除ボタンを押しながらストライカ A を格納する

3 シートを起こしストライカ B に固定する

前倒しのしかた

1 左右席のシートベルトをベルトハンガーにかける

2 中央席シートベルトを分離する(→P. 28)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

3 中央席シートベルトのバックルをポケットに格納する

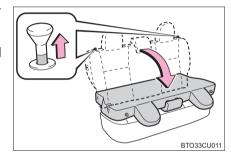
BTO33CU039

4 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P. 110）

5 背もたれを倒す

▶ 一体可倒式

固定ノブを引き、背もたれを前方に倒す

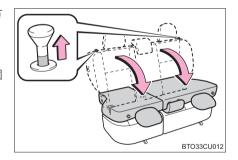
もどすときは背もたれを起こし、固定してください

BTO33CU011

▶ 分割可倒式

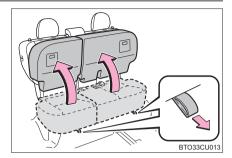
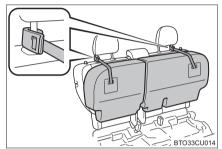
固定ノブを引き、背もたれを前方に倒す

左右分割して倒します。

もどすときは背もたれを起こし、固定してください

BTO33CU012

チップアップのしかた★

1 シートクッション下のチップアップストラップを引きロックを解除し、クッションを持ち上げる

左右分割してチップアップします。

2 シートクッション裏面にあるポケットからシート固定ベルトを取り出し、フックをヘッドレストステーにかける

警告

■チップアップ時の走行について

走行するときはチップアップした状態で、中央のシートに座らないでください。
事故のときにシートクッション部が体を十分に支えきれず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠警告

■リクライニング調整について

走行するときは背もたれを、シート固定ストライカーA（→P. 106）で固定している状態で使用してください。
背もたれを倒していると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BTO33CU015

■背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作するときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
- シートベルトを巻き込まないように、左右席のシートベルトをハンガーにかけてください。（→P. 106）
  また、シートベルトをシートロック部に挟み込まないようにしてください。
  シートベルトが傷付くおそれがあります。

BTO33CU040

- ロック解除ノブの赤ラベルが見えていないことを確認する

BTO33CU029

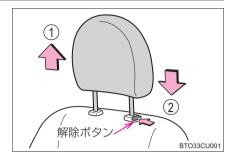
ヘッドレスト

フロント席／リヤ外側席★

上下調整

① 上げる

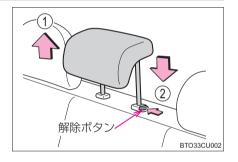
② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

リヤ中央席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ中央席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

◆ トライアングルモード

助手席をいちばんうしろまで移動する（→P. 114）

BTO33CU016

◆ テーブルモード

助手席を前倒しする（→P. 114）

BTO33CU017

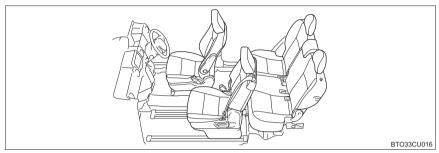
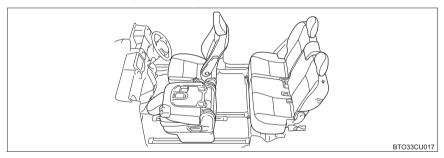
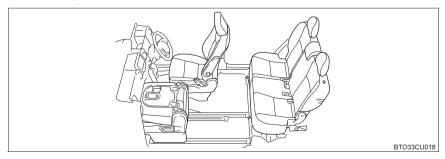
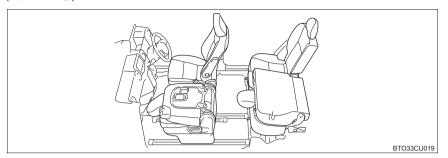
◆ フリースペースモード

（→P. 115）

BTO33CU018

◆ ロングラゲージモード★

(→P. 116)

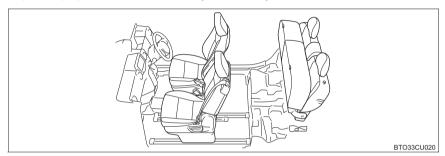
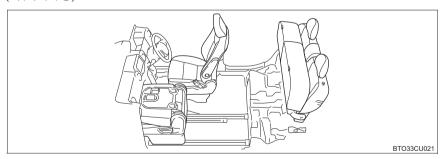
BTO33CU019

◆ トールラゲージモード★

リヤシートをチップアップする（→P. 108）

BTO33CU020

◆ ビッグスペースモード★

(→P. 116)

BTO33CU021

★：仕様により異なる装備やオプション装備

トライアングルモードにするには

■ 助手席をいちばんうしろまで移動する

1 スライドストッパーをはずす（→P. 118）

2 レバーを引き、シートをスライドする

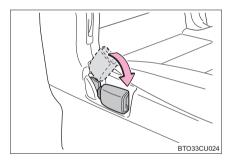
スライドするときはシートに手をそえてください。

BTO33CU022

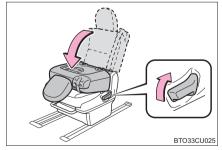
テーブルモードにするには

■ 助手席を前倒しする

1 助手席シートベルトのバックルを格納する

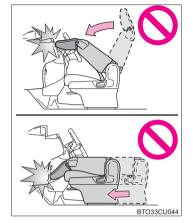
BTO33CU024

2 レバーを引き、背もたれを前に倒す

前に倒すときはシートに手をそえてください。

BTO33CU025

⚠注意

■テーブルモード時の助手席の前後位置について

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、シートの故障などの原因につながるおそれがあります。

- 助手席を前倒しする時は、シートがダッシュボードなどと干渉しないようにシートの前後位置に注意してください。
- テーブルモード使用中はシートがダッシュボードなどと干渉する位置で使用しないでください。

フリースペースモードにするには

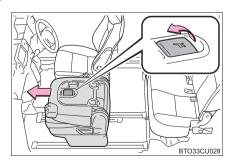
1 助手席シートベルトのバックルを格納する（→P. 114）

2 助手席ヘッドレストをはずす（→P. 110）

取りはずしたヘッドレストは走行の支障にならないようラゲージルームなどに保管してください。

3 助手席を前倒しする（→P. 114）

4 レバーを引き、シートをスライドする

スライドするときはシートに手をそえてください。

ロングラゲージモードにするには★

1 助手席を前倒しする（→P. 114）

2 リヤシートを前倒しする（→P. 106）

ビッグスペースモードにするには★

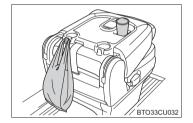
1 助手席をフリースペースモードの状態にする（→P. 115）

2 リヤシートをチップアップする（→P. 108）

知識

■テーブルモード時の助手席シートバックボードについて

図のようにカップホルダー、買い物フックとして使用できます。

BTO33CU032

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**シートアレンジについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。

●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

■**背もたれの前倒しについて（リヤシート）**

●倒した背もたれの上に人をのせて走行しないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●倒した背もたれの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。

●背もたれを倒すとき、もどすときはシートベルトを巻き込まないように左右席のシートベルトをハンガーにかけてください。（→P. 106）
また、シートベルトをシートロック部に挟み込まないようにしてください。
シートベルトが傷付くおそれがあります。

■**テーブルモードについて**

●走行中はテーブルとして使用しないでください。
テーブルの上に置いている物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●テーブルの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。

⚠注意

■シートアレンジについて

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

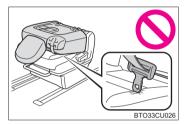
■背もたれの前倒しについて

背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

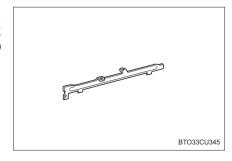
■テーブルモードについて

●助手席シートの前後調整をするときは、シートがインストルメントパネルにあたらないように注意してください。

●背もたれを前倒しするときは、シートベルトのバックルを収納してください。シートにあとが残ることがあります。

●背もたれを前倒しするときは、シートベルトのプレートの向きに注意してください。シートにプレートのあとが残ることがあります。

●シートベルトがロックし背もたれが起こせないときは、背もたれを途中まで起こし、いったん倒し、再度背もたれを起こしてください。
または、一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

スライドストッパー

スライドストッパーを使用することで、助手席をうしろに移動した際、リヤシートに乗車している人の脚などを挟み込むのを防止します。

知識

■スライドストッパーについて

ストッパーを取りはずすと、助手席の前後位置調整範囲を拡大することができます。

●ストッパーを取り付けるときは、ストッパーのツメをレール内の穴に挿し込みます。A 部が車両の前方に向くように取り付けてください。

●取りはずしたストッパーは、ラゲージルーム内の工具などと一緒に収納してください。(→P. 316)

警告

■スライドストッパーについて

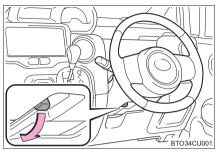
B 溝にストッパーを挿し込まないでください。
挿し込んだまま助手席を動かすと車両の損傷におよぶか、次のようなおそれがあります。

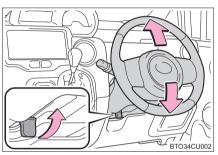
●B 溝には助手席シートの配線が通っているため、断線・ショートによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、車両衝突時にシートベルトプリテンショナーが作動しなかったり、SRS サイドエアバッグ装着車はエアバッグが展開しないなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席をうしろに移動した際、ストッパーが正しく固定されていないため、リヤシートに乗車している人の脚などを挟み込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ハンドル

調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる

2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

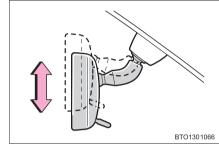
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

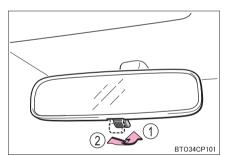
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時
② 防眩時

⚠ 警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

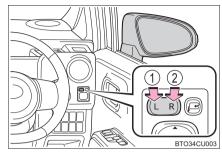
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右

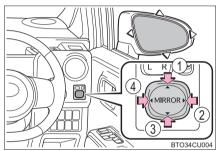
BTO34CU003

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

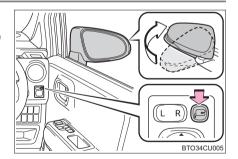
② 右

③ 下

④ 左

BTO34CU004

ドアミラーを格納する

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

BTO34CU005

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 196）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

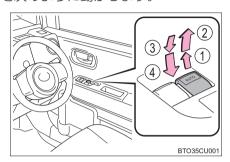
スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

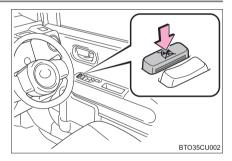
BTO35CU001

1. 閉める
2. 自動全閉（運転席）※
3. 開ける
4. 自動全開（運転席）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

BTO35CU002

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジン スイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1. ウインドウロックスイッチをアンロック（押していない状態）にする
2. パワーウインドウスイッチを「自動全開」または「開ける」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと※1、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
3. パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け※2、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

※1 すでにドアガラスが全開になっている場合でも、パワーウインドウスイッチを 1 秒以上「自動全開」または「開ける」の位置で押し続けてください。

※2「自動全閉」の位置で引き続ける操作は途中でやめないでください。

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→P. 138, 141

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 147）
2 パーキングブレーキを解除する（→P. 150）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 147）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
2 パーキングブレーキをかける
3 シフトレバーを P にする（→P. 147）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

4 エンジンを停止する

エンジン スイッチを“LOCK ”★または OFF★にします。

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

★：仕様により異なる装備やオプション装備

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■環境に配慮した運転

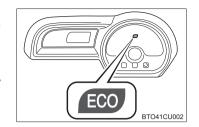
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーが D 以外のとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。(→P. 70)

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 302を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 147)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**すべりやすい路面を運転するとき**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■**シフトレバーを操作するとき**

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーが P 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■**万一脱輪したときは（4WD オートモード作動時★）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

注意

■**運転しているとき**

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■**駐車するとき**

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■**部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 315, 325 を参照してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

注意

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

● エンストする

● 電装品がショートする

● 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

● ブレーキの効き具合

● エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

● プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- リヤ席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

1 正しい運転姿勢（→P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジン スイッチを“START”の位置にまわす

エンジン スイッチの位置の切りかえ

① “LOCK”（OFF）
- ・ステアリングロックがかかります。
- ・キーを抜き挿しすることができます。
（シフトレバーがPのとき、キーを抜き挿しできます）

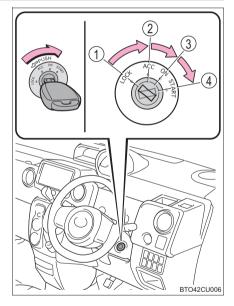
② “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

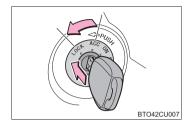
④ “START”

エンジンが始動できます。

知識

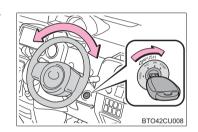
■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

1 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

BTO42CU007

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン スイッチをまわしてください。

BTO42CU008

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

⚠警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（→P. 302）

⚠ 注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを "ACC" または "ON " にしたまま長時間放置しないでください。

■**エンジンを始動するとき**

●一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジン スイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

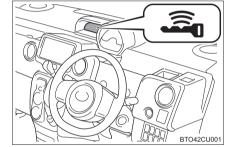
1 正しい運転姿勢（→P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

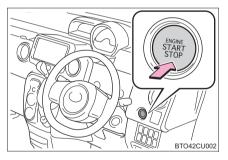
スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンはかかりません。

BTO42CU001

5 エンジン スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジン スイッチのどのモード（→P. 142）からでもエンジンを始動できます。

BTO42CU002

エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→P. 150）

4 エンジン スイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離した状態にして、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

エンジン スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジン スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

① OFF ※

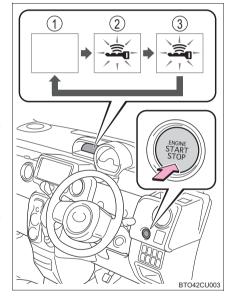
非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジン スイッチのモードは OFF になりません。以下の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジン スイッチを 1 回押す
4. スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

知識

■電子キーはポケットなどに携帯してください

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、ドアポケット内、カップホルダー内、ラゲージルーム内、小物入れなどにあるときは、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しません。（作動範囲：→P. 77）

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーがP にあるとき60分以上アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジン スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが始動していないときは、エンジン スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 82

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 79

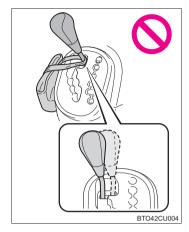
■ご留意いただきたいこと

→P. 80

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 60)
トヨタ販売店へご連絡ください。

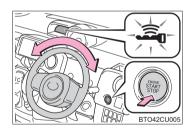
●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。
シフトレバーに物をかけないでください。

BTO42CU004

■ステアリングロックについて

エンジン スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジン スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が 15 秒間緑色に速く点滅します。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

BTO42CU005

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒〜 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が黄色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■緊急時のエンジン始動方法

シフトレバーを P にしてパーキングブレーキをかけ、エンジン スイッチがアクセサリーモードの状態でブレーキペダルを踏みエンジン スイッチを１５秒以上押し続けることにより、エンジンが始動できる場合があります。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 268

■エンジン スイッチの操作について

●エンジン スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●エンジン スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジン スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→P. 342

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジン スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 302)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジン スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯していないときはエンジン スイッチが OFF になっていません。エンジン スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジン スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

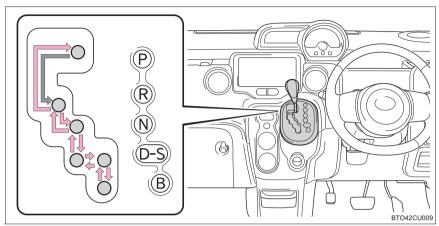
●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジン スイッチの操作について

エンジン スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方

エンジン スイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→P. 341

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキカの急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

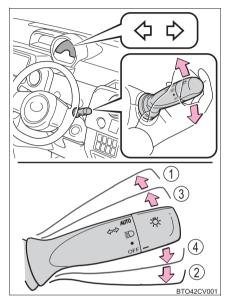
① 左折

② 右折

③ 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の③または④の位置に操作してください。レバーを①または②の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

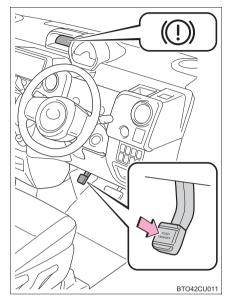
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

BTO42CU011

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 178

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

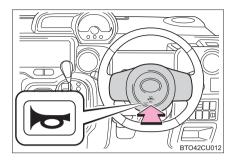
→P. 309

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 120）

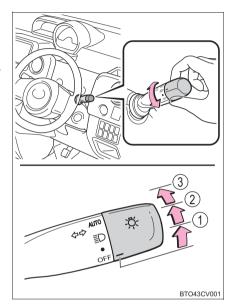
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

① ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

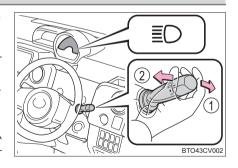
② ≣D 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯★
(エンジン スイッチが“ON”★、またはイグニッションON モード★のとき)

ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

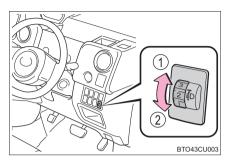
② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

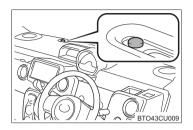
①　上向きに調整

②　下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	3
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	5

知識

■ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能（ランプ自動点灯・消灯システム装着車／寒冷地仕様車）

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● またはの位置にします。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジン スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● またはの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー（ランプ自動点灯・消灯システム装着車を除く／寒冷地仕様車を除く）

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 366）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

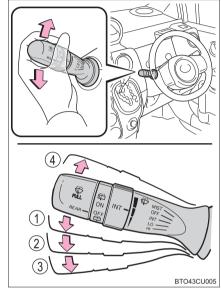
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

“ INT ” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

① 間欠作動（INT）
② 低速作動（LO）
③ 高速作動（HI）
④ 一時作動（MIST）

⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

4
運転

⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

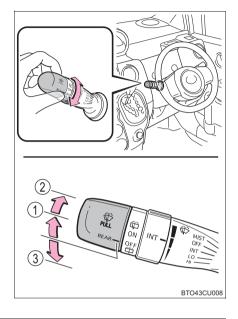
操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① 通常作動

② ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

③ ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

● ドアとドアガラスを閉めて、エンジン スイッチを“LOCK”★または OFF★にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、"シュー" という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

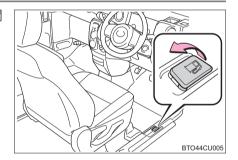
■**給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジンの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

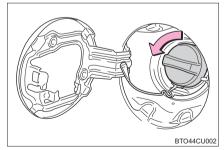
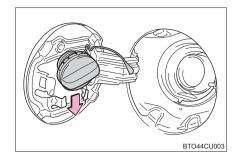
給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油口を開ける

BTO44CU005

2 キャップをゆっくりまわして開ける

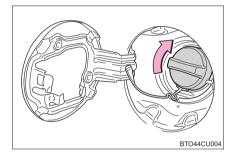
BTO44CU002

3 キャップをホルダーにはめ込む

BTO44CU003

給油口を閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

BTO44CU004

警告

■**キャップが正常に閉まらないとき**

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

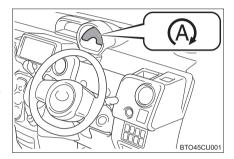
Toyota Stop & Start System (SMART STOP) ★

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジン スイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

D・S レンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または S で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止する

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。

■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

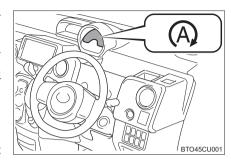
P・N レンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P または N にすると、エンジンが自動的に停止する（→P. 147）

Stop & Start 表示灯が点灯します。

D または S レンジアイドリングストップの状態で、シフトレバーを P または N にしても、エンジンの停止状態は継続されます。

■ エンジンが再始動する

シフトレバーを D・S・B・R のいずれかにすると、エンジンが再始動する（→P. 147）

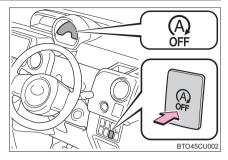
シフトレバーの操作はブレーキペダルを踏んで行ってください。

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態にもどる）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

坂道発進補助機能（D・S レンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・エンジンが十分暖まっているとき
・バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・ボンネットが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・シフトレバーが R・B 以外のとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・車内温度が高いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき、および定期的な充電中
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・消費電力が大きいとき
・標高が高いとき
・外気温度が低いとき
・オートエアコン作動中に

を押してフロントウインドウガラス曇り取りを作動させているとき（オートエアコン装着車）
・ブレーキペダルを強く踏み込み、急減速で停車したとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。

・ポンピングブレーキをする、またはブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
・エアコンを使用しているとき、またはオンにしたとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき
・傾斜などで車両が動き出したとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・消費電力が大きいとき
・運転席ドアを開けたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき

●次の状況では、Stop & Start システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

・バッテリーが放電しているとき
・バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
・エンジン冷却水温が低いとき

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジン スイッチを“LOCK”★にまわし 3 秒以上保持してから“START”★にまわす、または OFF★にして 3 秒以上経過してからイグニッション ON モード★にすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■Stop & Start システム保護機能

大音量でオーディオを使用しているとき、Stop & Start システムを保護するためにオーディオを自動的にオフにする場合があります。
そのような状態になった場合は、エンジン スイッチを“LOCK”★にまわし 3 秒以上保持してから“ACC”★または“ON”★にまわす、または OFF★にして 3 秒以上経過してからアクセサリーモード★またはイグニッション ON モード★にすることによってオーディオを再開させてください。

■ボンネットを開けたときは（D・S レンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジン スイッチでエンジンを始動させてください。

■坂道発進補助機能について（D・S レンジアイドリングストップ）

●勾配が急な上り坂では、坂道発進補助機能が解除されたあと、車両が後退することがあります。このような場所では、パーキングブレーキをかけたり、ブレーキペダルを操作して発進してください。

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏力がかわる場合がありますが、異常ではありません。

●Stop & Start システムによるエンジン再始動後、アクセルペダルを踏むと坂道発進補助機能が解除されます。

■Stop & Start システムについて

Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■警告ブザーについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。

●D・S レンジアイドリングストップ：運転席ドアが開いたとき

■Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がオフになり、送風になります。また、オートエアコン作動時のみ送風が停止する場合があります。（オートエアコン装着車）エアコンがオフにならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、ウインドウガラスが曇ったとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動してください。そしてエアコンの A/C 、または A/C を ON にして曇りを取ってください。

また、オートエアコン作動中に を押してフロントウインドウガラス曇り取りを作動させるとエンジンが再始動し、曇りを取ることができます。（オートエアコン装着車）
断続的にウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止します。

■アイドリングストップ時間表示と総アイドリングストップ時間表示

→P. 68

■バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。同等の性能のものと交換してください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**Stop & Start システムが作動しているとき**

- Stop & Start システムによるエンジン停止中は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）。
エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、車から離れないでください（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）。
エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動するため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはインテリアランプのスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯しないとき

4WD オートモードスイッチ★

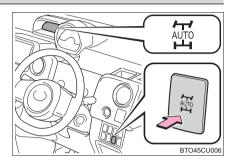
走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて F F（前輪駆動）走行と４ WD（４輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを使用する

スイッチを押す

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

もう一度スイッチを押すと、解除されます。

BTO45CU006

知識

■4WD オートモード表示灯について

●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が消灯し、4WD 警告灯が点滅します。（→P. 311）
警告灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

・警告灯が消灯するまで車速を落とす。
・警告灯が消灯するまでエンジンをかけたまま停車する。

●4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの状態にかかわらず FF モードとなります。

■4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

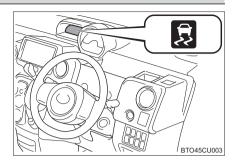
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 坂道発進補助機能★

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→P. 166）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに TRC を停止することにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

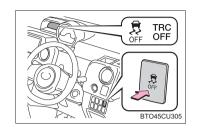
もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときは作動可能状態にもどります。

●エンジン スイッチを“LOCK★”、または OFF★にしたとき

●(TRC のみを作動停止にしている場合)車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

★:仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC、VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→P. 361）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・エンジンオイル
・冷却水
・ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P. 264）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

マニュアルエアコン★

① 風量調節ダイヤル
② 吹き出し口切りかえダイヤル
③ 温度調節ダイヤル
④ 外気導入・内気循環切りかえダイヤル
⑤ エアコン ON・OFF

エアコンの設定

1 風量を調節するには、風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせてください。

2 温度設定を変更するには温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

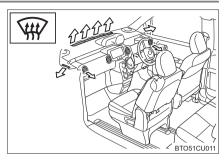
3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわして吹き出し口を選ぶ

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

1 吹き出し口切りかえダイヤルを [デフロスター] の位置にする

BTO51CU011

2 外気導入・内気循環切りかえダイヤルを [外気導入] の位置にまわす

3 状況に応じて次の操作を行う

- 風量調節ダイヤルで風量を調節する
- 温度調節ダイヤルで温度を調節する
- A/C を押してエアコンを ON にする

風量を強くし、送風温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

吹き出し口と送風について

上半身に送風する

BTO51CU012

上半身と足元に送風する

：寒冷地仕様車のみ

BTO51CU013

足元に送風する

：寒冷地仕様車のみ

BTO51CU014

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：寒冷地仕様車のみ

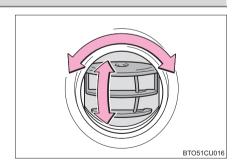
BTO51CU015

外気導入・内気循環を切りかえるには

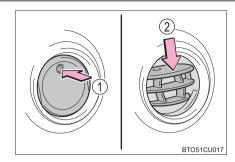
外気導入・内気循環切りかえダイヤルを の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切りかわります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

吹き出し口の調整

BTO51CU016

吹き出し口の開閉

① 開ける

② 閉じる

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に雲りを取ることができます。

●A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■エアコン使用中に A/C の作動表示灯が消灯したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。再度消灯する場合は、スイッチを OFF にしてからトヨタ販売店で点検を受けてください。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

を押しても除湿効果が働かない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

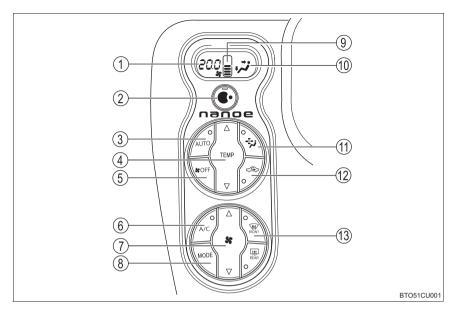
→P. 294

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

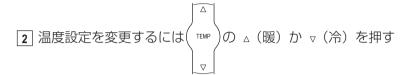
オートエアコン★

① 温度表示
② 「ナノイー」
③ オート設定
④ 温度調節
⑤ 送風停止
⑥ エアコンの ON・OFF
⑦ 風量調節
⑧ 吹き出し口切りかえ
⑨ 風量表示
⑩ 吹き出し口表示
⑪ 花粉除去
⑫ 内外気切りかえ
⑬ フロントウインドウガラス曇り取り

オートエアコンを使うには

1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 温度設定を変更するには TEMP の △（暖）か ▽（冷）を押す

3 A/C を押す

ボタンを押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。

お好みの設定で使うとき

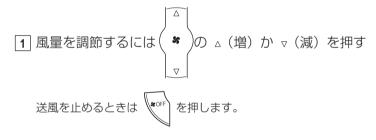
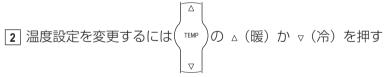
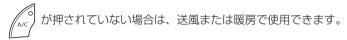
1 風量を調節するには の △（増）か ▽（減）を押す

送風を止めるときは OFF を押します。

2 温度設定を変更するには TEMP の △（暖）か ▽（冷）を押す

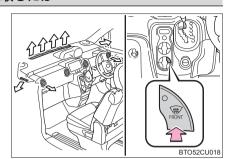
A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

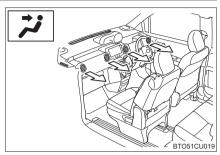
3 吹き出し口を切りかえるには MODE を押す

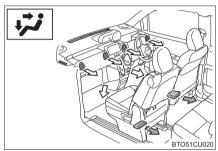
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

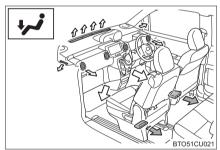
 を押す

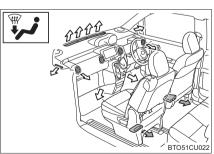
除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に切りかわる場合もあります)
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

吹き出し口と送風について

上半身に送風する

上半身と足元に送風する

⬅ ：寒冷地仕様車のみ

足元に送風する

⬅ ：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

⬅ ：寒冷地仕様車のみ

外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環に切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に を押す前のモードにもどります。

途中で止めるときは、再度 を押すと前のモードにもどります。

「ナノイー」を使うには

スイッチを押す

エアコン送風時に「ナノイー」が作動し、 の表示灯が点灯します。

(「ナノイー」について：→P. 194)

風向きの調整と吹き出し口の開閉

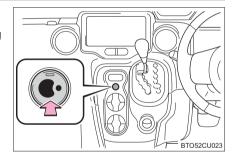
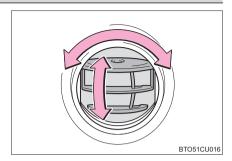
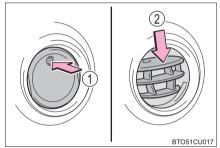
吹き出し口の調整

BTO51CU016

吹き出し口の開閉

① 開ける

② 閉じる

BTO51CU017

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、をON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に雲りを取ることができます。

● を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■エアコン使用中にの作動表示灯が消灯したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。再度消灯する場合は、スイッチを OFF にしてからトヨタ販売店で点検を受けてください。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

を押しても除湿効果が働かない場合があります。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をする場合があります。

・ 内気循環に切りかわらない
・ 除湿機能が作動する
・ 約 1 分後に作動が停止する

●雨天時はガラスが曇るため、を押してください

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※1について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき

・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 294

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店に問い合せください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください

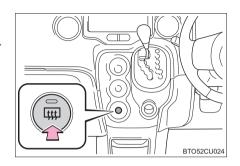
▶ マニュアルエアコン装着車

BTO52CU024

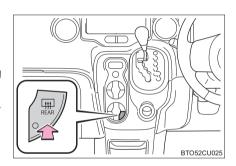
オン／オフ

押すごとにオン／オフが切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。

▶ オートエアコン装着車

BTO52CU025

オン／オフ

押すごとにオン／オフが切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
リヤウインドウデフォッガーは自動的にオフになります。

作動時間は外気温度や車速によってかわります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーをオンにするとミラーヒーターも同時に作動します。

■ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラー表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

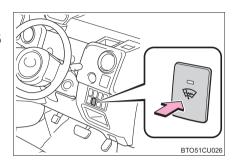
■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください

オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

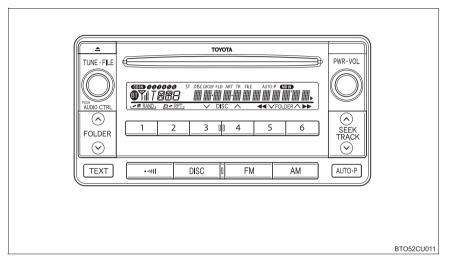
警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

オーディオの種類

▶ CD プレーヤー、AM/FM ラジオ装着車

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 200
CD プレーヤーの使い方	P. 202
MP3 ／ WMA ディスクの聞き方	P. 207
快適に聞くために	P. 213
ステアリングスイッチでの操作	P. 215

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

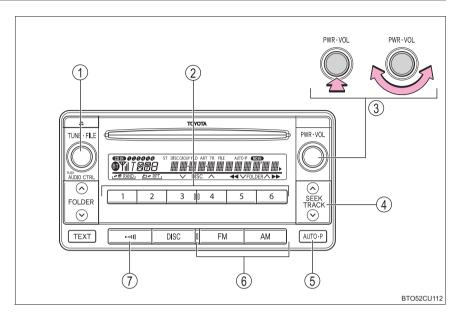
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

① 周波数の調整
② 選局
③ 電源のオン／オフ、音量の調整
④ 周波数の探索
⑤ 放送局の自動設定
⑥ AM ／ FM の切りかえ
⑦ 交通情報

放送局を記憶

■ 手動設定

1 [TUNE・FILE PUSH AUDIO CTRL] をまわして、または [SEEK TRACK] の“∧”（高い周波数）または“V”（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

2 記憶させたいスイッチ [1] ～ [6] を“ピッ”と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

[AUTO・P] を“ピッ”と音が鳴るまで押す

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ピッピッ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ıııl]を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ [·ıııl]について

● 新車時は、1620kHzにセットしてあります。

● AMラジオモードのとき[·ıııl]を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を[·ıııl]に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHzにもどります。

● [·ıııl]を押して、ラジオを受信しているときは、[SEEK TRACK]・[TUNE·FILE PUSH AUDIO CTRL]・[1]～[6]・[AUTO·P]を操作しても、周波数は切りかわりません。

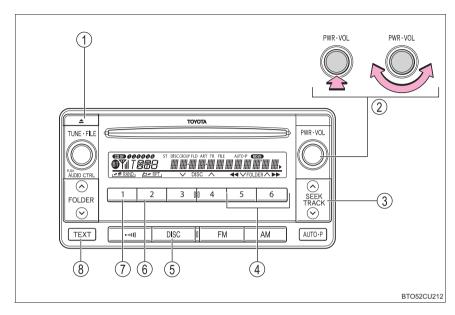
■ バッテリーとの接続が断たれたときは

[1]～[6]に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

● アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信感度を保つことが難しい場合もあります。

● [AUTO·P]を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

CD プレーヤーの使い方

① CD の取り出し
② 電源のオン／オフ、音量の調整
③ 選曲
④ 早もどし／早送り
⑤ 再生
⑥ リピート再生
⑦ ランダム再生
⑧ 表示の切りかえ

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

SEEK TRACK の “∧”（次曲）または “V”（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし、早送りする

早もどし、早送りするには、[5]（早もどし）または[6]（早送り）を押し続ける

リピート（RPT）再生する

[2]（RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

[1]（RAND）を押す

表示を切りかえる

[TEXT]を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

曲順および経過時間 →CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、[TEXT]を長押しすることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
[TEXT]をもう一度長押しする、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度[1]（RAND）または[2]（RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは再生できません。

■CD プレーヤーの保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CDをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

⚠注意

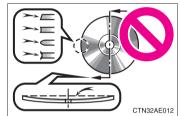
■使用できない CD、アダプター

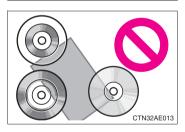
次のような CD、8cm CD アダプター、Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

- 直径 12cm の円形以外の CD

CTN32AE011

- 低品質または変形している CD

CTN32AE012

- 記録部分が透明または半透明の CD

CTN32AE013

- セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

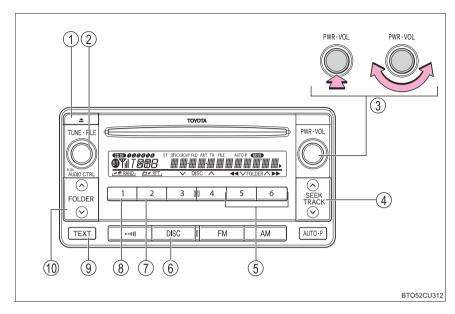
CTN32AE014

注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- ●CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- ●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- ●CD は直射日光を避けて保管する
- ●CD プレーヤーを分解しない
- ●一度に 2 枚以上の CD を挿入しない

BTO52CP025

MP3 ／ WMA ディスクの聞き方

① CD の取り出し
② ファイルの選択
③ 電源のオン／オフ、音量の調整
④ ファイルの選択
⑤ 早もどし／早送り
⑥ 再生
⑦ リピート再生
⑧ ランダム再生
⑨ 表示の切りかえ
⑩ フォルダの選択

MP3 ／ WMA ディスクを挿入する、または取り出す

→P. 202

早もどし、早送りする

→P. 203

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

FOLDER の "∧"（次フォルダ）または "V"（前フォルダ）を押して聞きたいフォルダを選ぶ

最初のフォルダのもどるには "V" を "ピッ" と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する

をまわして、または［SEEK TRACK］の“∧”（次ファイル）または“V”（前ファイル）を押して聞きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

■ **ファイルをくり返して再生する**

［2］（RPT）を押す

■ **フォルダをくり返して再生する**

［2］（RPT）を“ピッ”と音がするまで押す

ランダム（RAND）再生する

■ **特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する**

［1］（RAND）を押す

■ **ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する**

［1］（RAND）を“ピッ”と音がするまで押す

表示を切りかえる

［TEXT］を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

→ フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ）→ 曲名 → アーティスト名 →（最初に戻る）

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXTを長押しすることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXTをもう一度長押しする、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度1(RAND)または2(RPT)を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CDをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3 ／ WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1　LAYER3、MPEG2　LSF　LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
・対応ビットレート
Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3/WMA ファイルの再生い使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記のとおりです。

・ディスクフォーマット：CD-ROM Mode1 および Mode2、CD-ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ファイルフォーマット：IS 09660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 “.MP3” または “.wma” が付いたものだけです。

●マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ /WMA タグについて
MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3/WMA の再生について
MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

●拡張子について
MP3/WMA 以外のファイルに “.MP3” または “.wma” の拡張子が付いていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3/WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

■**使用できない CD、アダプター**

→P. 205

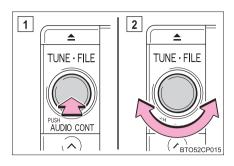
■**CD プレーヤーの取り扱いについて**

→P. 206

快適に聞くために

1 を押して、調整したいモードを表示させる

2 をまわして、音質と音量バランスの設定を変更する
(→P. 214)

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには

■ 調整モードの切りかえ

を押すごとに次のように切りかわります。

FAD→BAS→TRE→BAL→EQ

■ 音質・音量バランスの調整

をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量バランス	FAD	F7 ～ R7	うしろ側大	前側大
低音※	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	-5 ～ 5		
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大
音場	EQ	OFF	右へまわす OFF ⇄ LOW ⇄ MID ⇄ EQ 左へまわす	
		1　COMPACT		
		2　SEDAN		
		3　MINIVAN		

※ 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

■音場調整について

代表的な 3 つの室内空間 [コンパクト (小)・セダン (中)・ミニバン (大)] に適した音場パターンが搭載されています。お客様の好みに応じて、OFF を含む 4 つの音場パターンから選択することができます。

■SRS Labs, Inc. の登録商標

本製品は AM ラジオモードを除き、SRS Labs, Inc. の SRS FOUCS™、SRS TruBass®の技術を使用しています。
FOCUS、TruBass、SRS と 記号は、SRS Labs, Inc. の商標です。FOCUS、TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

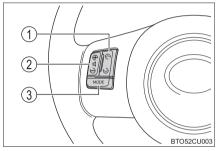
SRS FOCUS™ は、最適な位置に設定されていないスピーカーからの音像を耳の位置まで持ち上げて、違和感なく自然に聴くことができます。

SRS TruBass®は、どのようなサイズのスピーカーからでも、深く豊かな低音を再生することができます。

ステアリングスイッチでの操作★

次の機能はハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます

モードの切りかえや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

● 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください。

① 現在のオーディオモードにより機能がかわります。
- ・周波数の探索（ラジオ使用時）
- ・選曲（CD 再生時）
- ・ファイル／フォルダの選択（MP3 ／ WMA 再生時）

② 音量を調整する

③ 電源・モードの切りかえ

電源を入れる

MODE を押す

電源が ON のときは、スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると電源が OFF になります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、MODE を押すごとに、次の順にモードが切りかわります。

AM→FM→CD ※ →AM

※ CD はディスクが挿入されていないときは選択できません。

音量を調整する

音量を大きくするには の “+” 側を、小さくするときは “−” 側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

1 MODE を押して、AM または FM を選択する

2 の “∧” 側、または “V” 側を押す

スイッチを押すごとに、記憶されている周波数を選択します。
“ピッ” と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

1 MODE を押して、CD を選択する

2 の “∧” 側、または “V” 側を押して、希望の曲を選択する

MP3 ／ WMA の操作

■ ファイルを選択するには

1 を押して、CD（MP3 ／ WMA）を選択する

2 の“∧”側、または“V”側を押して、希望のファイルを選択する

■ フォルダを選択するには

1 を押して、CD（MP3 ／ WMA）を選択する

2 の“∧”側、または“V”側を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のファイルを選択する

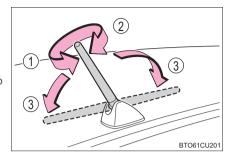
警告

■事故を防ぐために

運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アンテナ

① 取りはずす
② 取り付ける
③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。

注意

■**自動洗車機にかけるときは**

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

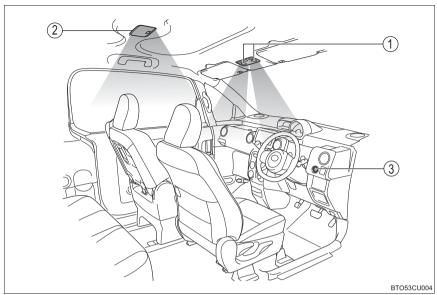
■**アンテナの損傷を防ぐために**

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■**洗車機などアンテナを取りはずしたときは**

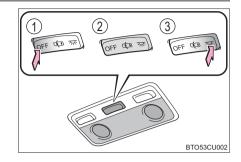
アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

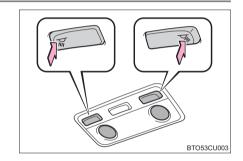
室内灯一覧

① パーソナルランプ／インテリアランプ（前側）（→P. 220）

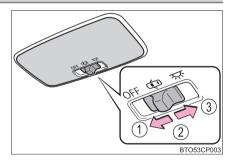
② インテリアランプ （うしろ側）（→P. 220）

③ エンジン スイッチ照明
（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

インテリアランプ（前側）

① ランプを消灯する
② ドアポジション（ドア連動）
③ ランプを点灯する

パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

インテリアランプ（うしろ側）

① ランプを消灯する
② ドアポジション（ドア連動）
③ ランプを点灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

インテリアランプのスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

インテリアランプのスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン スイッチが“LOCK”★または OFF★の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店で設定可能な機能

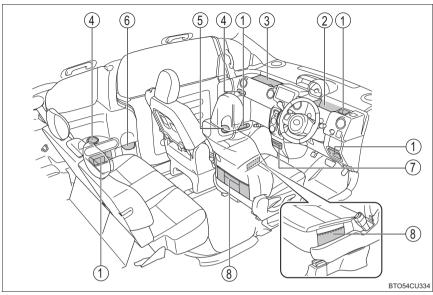
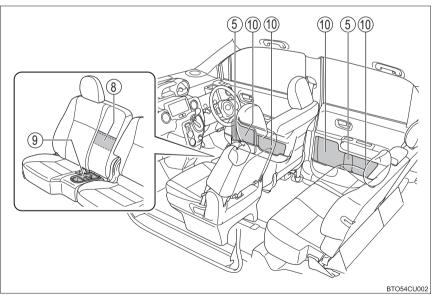
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 367）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

①小物入れ (→P. 230)

②運転席アッパートレイ (→P. 224)

③助手席アッパーボックス (→P. 225)

④カップホルダー (→P. 227)

⑤ボトルホルダー (→P. 235)

⑥アンブレラホルダー★／リヤシート前小物入れ★ (→P. 236, 231)

⑦センタークラスターカップホルダー★／センタークラスター小物入れ★ (→P. 227, 230)

⑧シートポケット (→P. 233)

⑨ベンチシートカップホルダー付クッショントレイ★ (→P. 229)

⑩ドアポケット (→P. 237)

警告

■**収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■**収納装備を使わないときや走行中の留意事項**

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

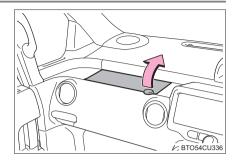
運転席アッパートレイ

警告

■運転席アッパートレイについて

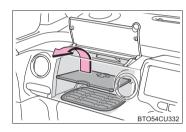
- 運転中、視界をさえぎるようなものは収納しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転中、ハンドルのすき間から使用しないでください。腕がハンドルに挟まれてけがをするおそれがあります。
また、ハンドル操作に支障を及ぼすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転席アッパートレイに転がりやすいものや倒れて外に出てくるような背の高いものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

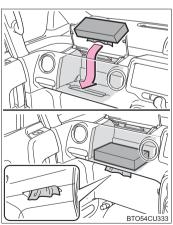
助手席アッパーボックス

フタを開ける

知識

■助手席アッパーボックスについて

ティッシュボックスを収納し使用することができます。

1 ゴムマット★と仕切り板★を取り出す

2 ティッシュボックスを設置する

ティッシュ取り出し口からティッシュペーパーが取り出せるように設置してください。

3 仕切り板★、ゴムマット★をもどします

★：仕様により異なる装備やオプション装備

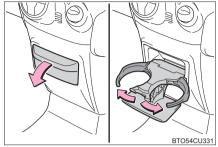
警告

■**走行中の警告**

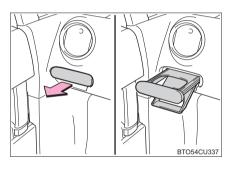
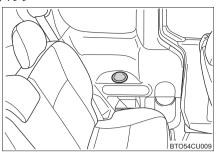
- 助手席アッパーボックスを必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたのもが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。
- 助手席アッパーボックスのフタの上にものを置かないでください。
  走行中、ものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

カップホルダー

▶ センタークラスターカップホルダー★

カップホルダーを引き出す

▶ 助手席カップホルダー

カップホルダーを引き出す

★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ リヤ左席クォータートリムカップホルダー

警告

■**収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

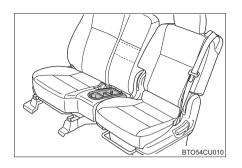
注意

■**破損を防ぐために**

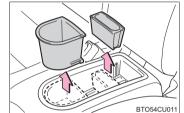
カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
カップホルダーが破損するおそれがあります。

■**使わないときは**

カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ベンチシートカップホルダー付クッショントレイ★

知識

■ベンチシートカップホルダー付クッショントレイの仕切りについて★

仕切をはずし、大型トレイとして使用できます。

警告

■収納してはいけないもの

ベンチシートカップホルダー付クッショントレイのカップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

小物入れ

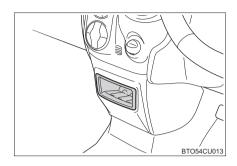
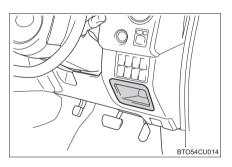
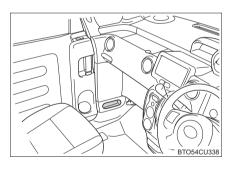
▶ センタークラスター小物入れ★

BTO54CU013

▶ 運転席ロア小物入れ

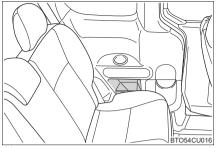
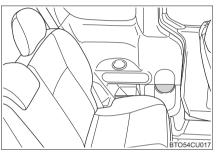
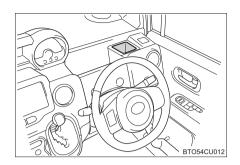
BTO54CU014

▶ インパネロアポケット

BTO54CU338

★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ リヤ左席クォータートリムポケット

▶ リヤシート前小物入れ（助手席側）★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ 運転席アッパー小物入れ

警告

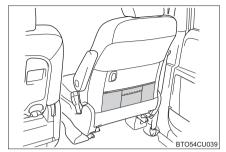
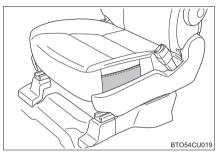
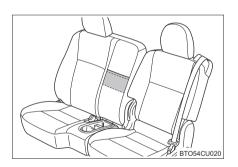
■運転席アッパー小物入れについて

ハンドル操作の支障になるもの、またはフタのない飲み物など、中身がこぼれる恐れのあるものは置かないでください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの

小物入れに転がりやすいものや倒れて外に出てくるような背の高いものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

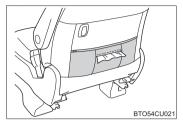
シートポケット

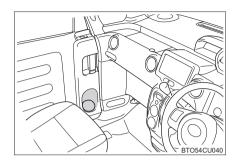
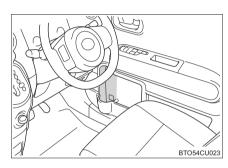
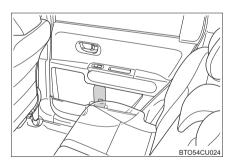
▶ 運転席シートバックティッシュポケット★

▶ 運転席クッションサイドポケット★

▶ ベンチシートセンターポケット★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■運転席シートバックティッシュポケットについて★

ティッシュボックス入れとして使用できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ボトルホルダー

▶ 助手席ドアボトルホルダー

▶ 運転席ドアボトルホルダー

▶ リヤ右席ドアボトルホルダー

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

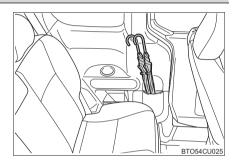
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

アンブレラホルダー（ＳＲＳ サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車）

傘や杖を２本収納できます。

注意

■アンブレラホルダーについて

●傘などの長尺物を出し入れするときは、スライドドア開口部に手をかけないでください。スライドドア開閉時、スライドドアで手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

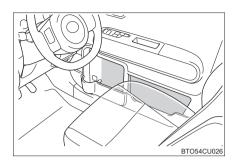
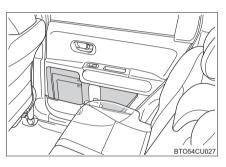
●傘などの長尺物を入れるときは、スライドドア開口部からはみ出さないようにしてください。スライドドア開閉時、長尺物が挟まれ、スライドドアの故障の原因となります。

ドアポケット

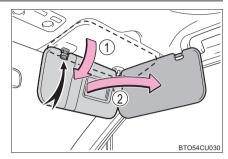
▶ 運転席ドアポケット

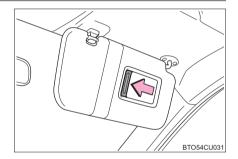
BTO54CU026

▶ リヤ右席ドアポケット

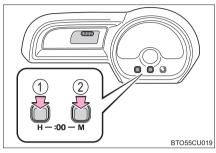
BTO54CU027

サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー

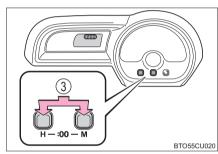
1. 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
2. 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “時” を調整する
② “分” を調整する

③ “分” を 00 にする※

クロックセットボタンを同時に 1 秒以上押します。

※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ACC” または “ON” のとき

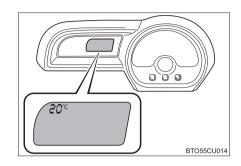
▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

外気温度表示

-40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます

知識

■外気温度が表示されるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

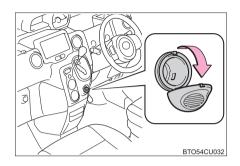
●外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■“ー　ー”または、“　E　”が表示されたときは

システム異常の可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

知識

■使用条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

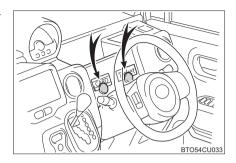
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

ポストカードホルダー

領収書、チケット、カード類などを挟むことができます。

⚠ 警告

■ポストカードホルダーについて

●運転中、視界をさえぎるようなものは挟まないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●地図や写真など挟んであるものを見ながら運転しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●運転中、ハンドルのすき間から使用しないでください。腕がハンドルに挟まれてけがをするおそれがあります。
また、ハンドル操作に支障をおよぼすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■損傷を防ぐために

分厚い紙などは挟まないでください。無理な力がかかると変形や、損傷などのおそれがあります。

運転席アームレスト★

手前に倒して使用します。

注意

■アームレストの損傷を防ぐために

過度な負荷をかけないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

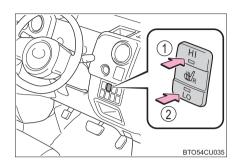
運転席快適温熱シートヒーター★

運転席を暖めることができます。

① HI（強）

インジケーター（黄）が点灯します。

② LO（弱）

インジケーター（黄）が点灯します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートヒーターに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常加熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

注意

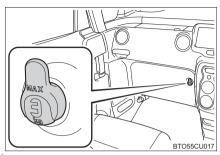
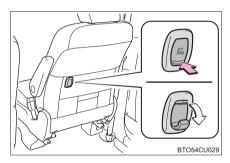
■**シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止しているときはスイッチを中立の位置にもどし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

買い物フック

▶ 助手席買い物フック

▶ 運転席シートバック買い物フック★

⚠ 警告

■運転席シートバック買い物フックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

■買い物フックの破損を防ぐために

3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

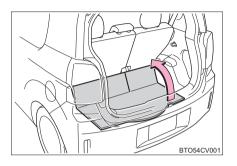
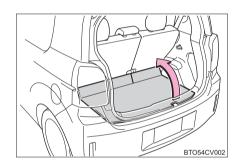
ラゲージルーム内装備

デッキボード

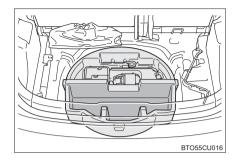
▶ FF 車（前輪駆動）

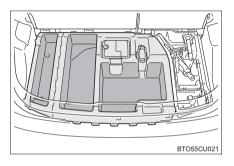
BTO54CV001

▶ 4WD 車（４輪駆動）

BTO54CV002

デッキアンダートレイ★

▶ FF 車（前輪駆動）

デッキボードをはずす

▶ 4WD 車（４輪駆動）

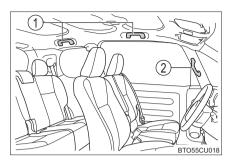
デッキボードをはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（回転式）★

② アシストグリップ（固定式）

警告

■**アシストグリップ（回転式）について**

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

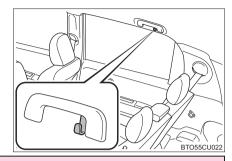
注意

■**破損を防ぐために**

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

コートフック★

リヤの運転席側にはコートフックが付いています。

警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
ＳＲＳ カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

お手入れのしかた

6

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおり取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナが引っかかり洗車できない場合や傷付いたりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチが押され、ドアが解錠・施錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙·油煙·粉じん·鉄粉·化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

●高圧洗車機を使うときは、ノズルの先端を車体から 50cm 以上離した状態で使用してください。ノズル先端を車体に近付けて使用すると、ランプ内または室内に水が入るおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。

● 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

● 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る

● スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける

● 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■**車両への水の浸入**

● 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

● SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P. 33）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させせないように気を付けてください。

■メーターまわりの清掃をするときは

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“LOCK”にしてください。
“ACC”または、“ON”のままメーター内のスイッチを押してしまうと時計やマルチインフォメーションディスプレイ表示をリセットしてしまうなどのおそれがあります。

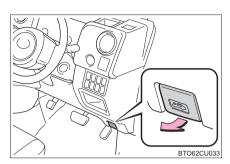
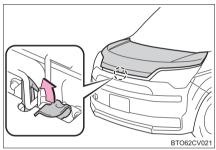
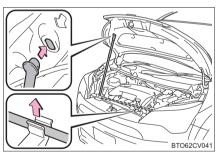
▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチを OFF にしてください。
アクセサリーモードまたは、イグニッション ON モードのままメーター内のスイッチを押してしまうと時計やマルチインフォメーションディスプレイ表示をリセットしてしまうなどのおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

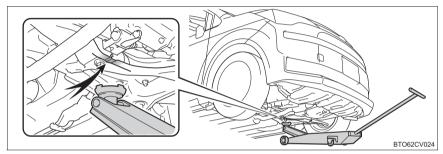
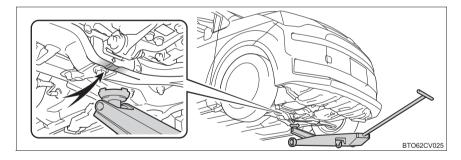
■ボンネットへの損傷を防ぐために

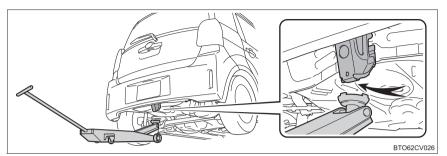
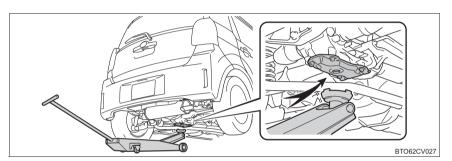
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

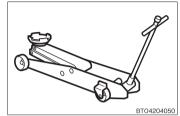
◆ フロント側

■ 1NR-FE エンジン搭載車

■ 1NZ-FE エンジン搭載車

◆ リヤ側

■ FF 車（前輪駆動）

■ 4WD 車（4 輪駆動）

警告

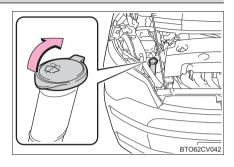
■車両を持ち上げるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

- ●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- ●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- ●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- ●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにする
- ●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- ●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- ●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

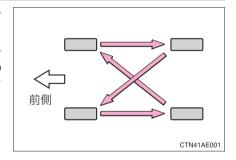
● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

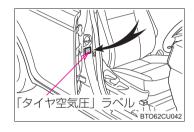
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタ定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※　kPa（kg/cm²）	
	前輪	後輪
165/70R14 81S	240（2.4）	
175/65R15 84H	230（2.3）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm²）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない
次のようなおそれがあります。

・ハンドルをきった際に、タイヤと車体が干渉する
・最低地上高が確保できない
・操縦安定性の悪化による横転事故
・ABS ／ VSC が正しく作動しない

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

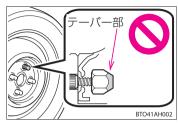
●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠警告

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠注意

■**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
  - ・CR2032（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電池交換のしかた

■ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

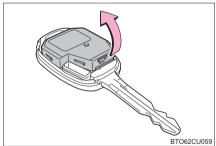
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

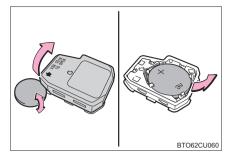
ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

BTO62CP051

2 モジュールを取りはずす

BTO62CU059

3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

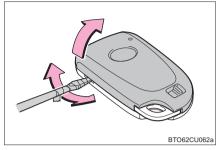
新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

BTO62CU060

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

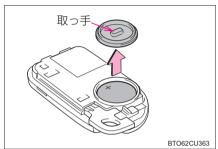
■ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 カバーをはずす

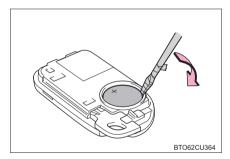
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

BTO62CU062a

2 電池のフタをはずす

取っ手を引っ張り電池のフタを取りはずします。

BTO62CU363

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。

BTO62CU364

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

- ●スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016
- ●スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR2032

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジン スイッチを“LOCK”★または OFF★にする

2 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 274)で確認する

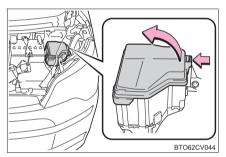
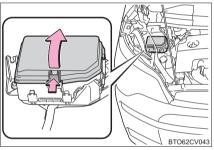
3 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）

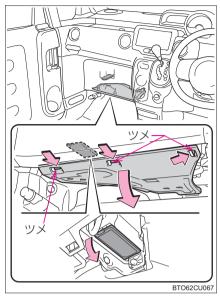
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

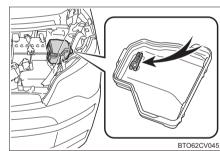
▶ エンジンルーム（2）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ 助手席足元

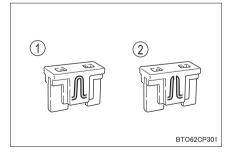
足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

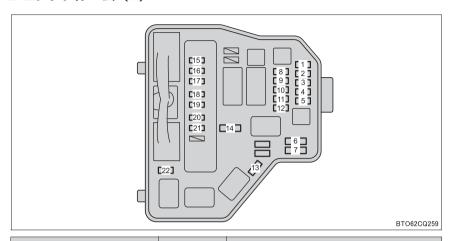
足元のカバーを取りはずすときは、ツメを矢印の方向に確実に押し、ツメを解除しながら、カバー全体を下に引きます。

4 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

5 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

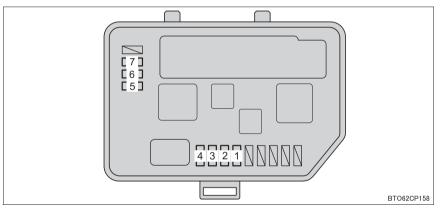
② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（1）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ETCS	10A	EFI システム
2	HAZ	10A	非常点滅灯
3	AM2	7.5A	スマートエントリー&スタートシステム
4	ECU-B	7.5A	メーター、パワーウインドウ、オートエアコン、Stop & Start システム
5	ST2	30A	スターター、Stop & Start システム
6	SPARE	—※	なし
7	SPARE	—※	なし
8	ST	30A	スターター
9	AMP	—※	なし
10	D/L NO.2	—※	なし
11	DOME	15A	室内灯、オーディオ
12	STR LOCK	20A	ステアリングロック
13	MIR-HTR	—※	なし
14	SPARE	—※	なし
15	EFI MAIN	20A	EFI システム
16	EFI NO.3	7.5A	EFI システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	HORN	10A	ホーン
18	EFI NO.2	10A	EFI システム、Stop & Start システム
19	IG2	10A	EFI システム
20	IGN	15A	EFI システム
21	MET	7.5A	メーター
22	ID/UP	7.5A	EFI システム

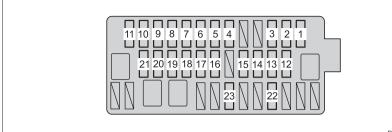
※ 設定なしのため、ヒューズは入っておりません。

■ エンジンルーム（2）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	H-LP LH LO	10A ※1 15A ※2	左側ヘッドランプ（ロービーム）
2	H-LP RH LO	10A ※1 15A ※2	右側ヘッドランプ（ロービーム）
3	H-LP LH HI	10A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
4	H-LP RH HI	10A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
5	H-LP MAIN	—※3	なし
6	S-HORN	—※3	なし
7	EU-DRL	—※3	なし

※1 ハロゲンヘッドランプ装着車

※2 ディスチャージヘッドランプ装着車

※3 設定なしのため、ヒューズは入っておりません。

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	WIPER RR	15A	リヤワイパー
2	WIPER	20A	フロントワイパー
3	WASHER	15A	ウォッシャー
4	GAUGE	10A	後退灯、EFI システム、4WD システム、シフトロックシステム
5	A/C	7.5A	マニュアルエアコン、オートエアコン、フロントワイパーデアイサー
6	ECU-IG NO.2	5A	VSC、Stop & Start システム、オートレベリングシステム
7	ECU-IG NO.1	5A	メインボデーECU、冷却ファン、電動パワーステアリング
8	DOOR P	20A	パワーウインドウ
9	DOOR R/R	20A	パワーウインドウ
10	PANEL	5A	メーター照明、スイッチ照明、ステアリングスイッチ
11	TAIL NO.2	10A	車幅灯、尾灯、番号灯、手動光軸調整ダイヤル、EFI システム
12	FOG FR	7.5A	未使用
13	AM1	7.5A	エンジン スイッチ
14	STOP	7.5A	EFI システム、スマートエントリー&スタートシステム、VSC、制動灯、ハイマウントストップランプ、シフトロックシステム
15	FOG RR	7.5A	未使用
16	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクタ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	D/L	25A	ドアロック
18	ACC	5A	メインボデー ECU、電動ドアミラー、シフトロックシステム
19	CIG	15A	アクセサリーソケット
20	DOOR	20A	パワーウインドウ
21	DOOR R/L	20A	パワーウインドウ
22	S-HTR	10A	シートヒーター
23	4WD	7.5A	4WD システム

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 279）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

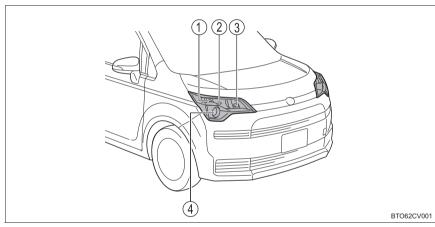
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 362）

バルブ位置

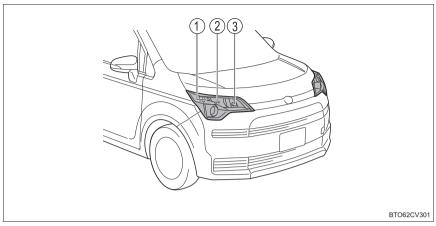
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

① 車幅灯

② ヘッドランプハイビーム

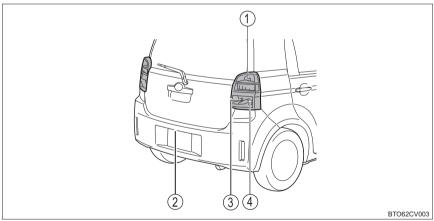
③ フロント方向指示灯／非常点滅灯

④ ヘッドランプロービーム

▶ ディスチャージヘッドランプ装着車

① 車幅灯

② ヘッドランプハイビーム

③ フロント方向指示灯／非常点滅灯

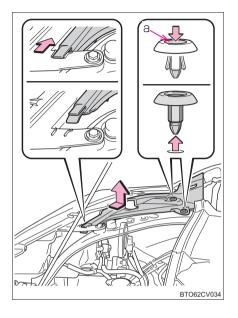
■ リヤ

① 尾灯

② 番号灯

③ 後退灯

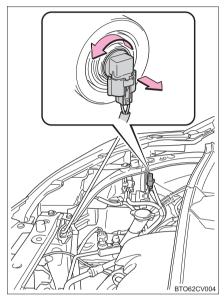
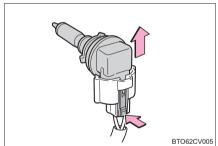
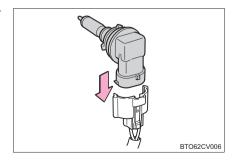
④ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

ヘッドランプ・車幅灯を交換する前に

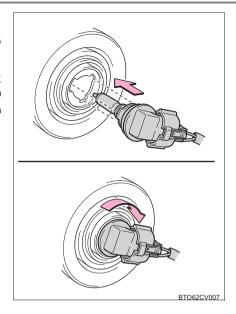
ボンネットを開けて、クリップの a 部を押し込みクリップをはずし、カバーを取りはずす

電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ボンネットを開けて、カバーをはずす（→P. 281）

2 ソケットをまわして取りはずす

3 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす

4 電球を交換し、コネクタを取り付ける

5 ソケットをまわして固定する

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ ヘッドランプハイビーム

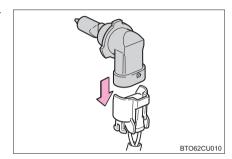
1 ボンネットを開けて、カバーをはずす（→P. 281）

2 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

3 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす

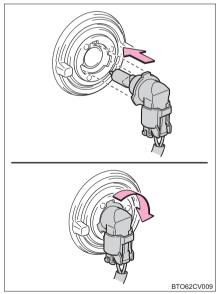
BTO62CU009

4 電球を交換し、コネクタを取り付ける

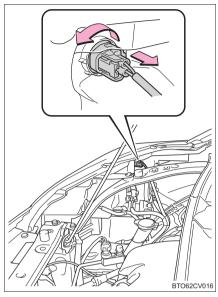
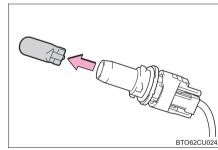
BTO62CU010

5 ソケットをまわして固定する

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

BTO62CV009

■ 車幅灯

1 ボンネットを開けて、カバーをはずす（→P. 281）

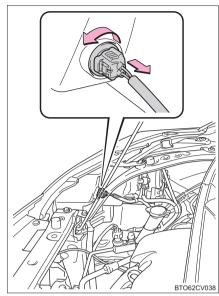
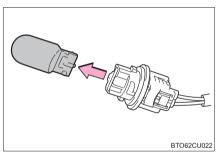
2 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

3 電球を取りはずす

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

BTO62CV038

2 電球を取りはずす

BTO62CU022

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯、後退灯

1 バックドアを開けて、ボルト（2本）をはずし、ランプ全体をはずす

ランプ本体につながっているコネクターをはずしてください。

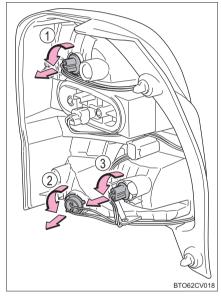
BTO62CV017

2 ソケットをまわして取りはずす

① 尾灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

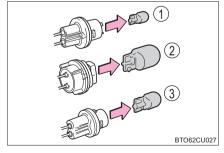
③ 後退灯

BTO62CV018

3 電球を取りはずす

① 尾灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

③ 後退灯

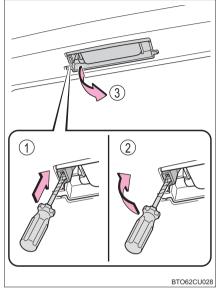
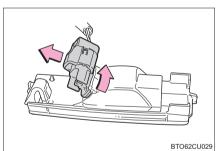
BTO62CU027

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

1 小さいマイナスドライバーなどの先端に、布などを巻く

傷が付くのを防ぐために保護してください。

2 カバーを取りはずす

マイナスドライバー等を図の①のように挿し込み、②の方向に移動させロックを解除させながら、③のように下に引く

3 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ディスチャージヘッドランプの作動（ディスチャージヘッドランプ装着車）

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ランプについて

制動灯、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■サイド方向指示灯／非常点滅灯について

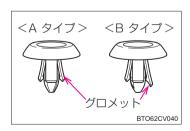
電球とレンズは一対のため、電球を取りはずすことができません。交換が必要なときはトヨタ販売店で交換してください。

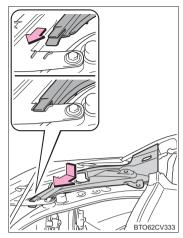
■電球（バルブ）を交換するとき

→P. 277

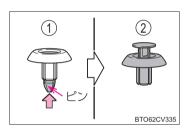
■エンジンルーム内カバーのクリップについて

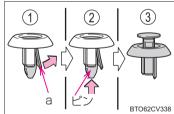
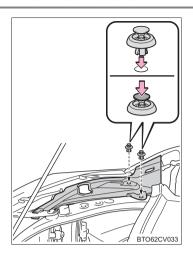
クリップ形状は、仕様などの違いにより右の A タイプと B タイプ※があります。

※B タイプのクリップはグロメットが 1 本だけ長くなっております。

■ヘッドランプ・車幅灯を交換したときは

1 カバーをはめ込む

2 クリップ形状を確認し（→P. 289）クリップのピンをもどす

▶ A タイプのクリップ装着車

ピンを押し込みます。

▶ B タイプのクリップ装着車

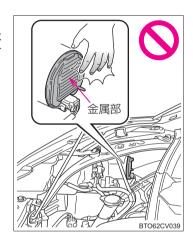
グロメットのa部を広げてロックを解除し、ピンを押し込みます。

3 クリップを取り付ける

警告

■**電球を交換するとき**

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●ディスチャージヘッドランプ装着車：
ヘッドランプの点灯中および消灯直後はヘッドランプ裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

■**ディスチャージヘッドランプ★について**

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■エンジンルーム内カバーのクリップについて

クリップをエンジンルームの中に落とさないよう注意してください。

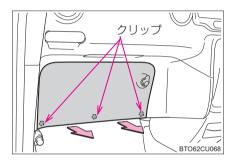
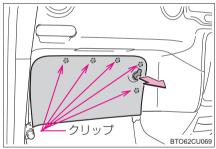
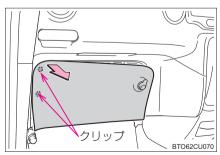
エアコンフィルターの交換

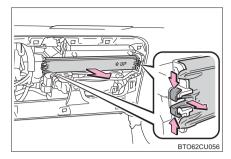
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

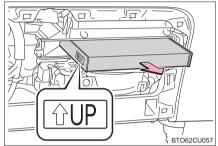
交換のしかた

1 エンジン スイッチを“LOCK”★または“OFF”★にする

2 カバーをはずす

①矢印のようにカバーを手前に引っ張り、クリップ 3ヶ所をはずす

②買い物フックを手前に引っ張り、クリップ5ヶ所をはずす

③矢印のようにカバーを手前に引っ張り、クリップ 2ヶ所をはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

3 フィルターカバーを取りはずす

4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

カバーをもどすときは、クリップ（10ヶ所）をもとの状態になるようにあてがい、すべてのクリップに均等に力がかかるようにカバー全体を押さえて取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■カバーの破損を防ぐために

カバーをはずす際、勢いよくカバーや買い物フックを引っ張らないでください。カバーを破損するおそれがあります。

万一の場合には

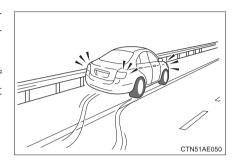
7

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→P. 299）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE050

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P. 300）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

ITIRMO001

知識

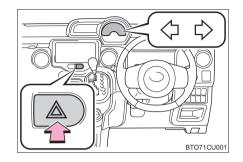
■停止表示板・停止表示灯について

高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

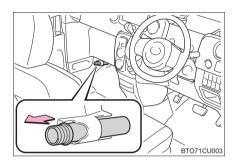
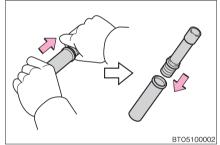
すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

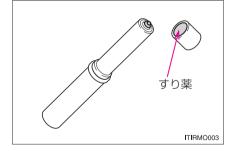
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

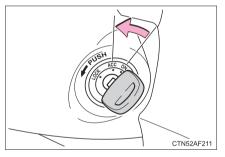
▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジン スイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：エンジン スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

●ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

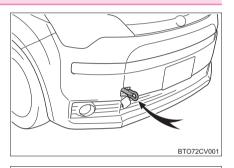
けん引される前に

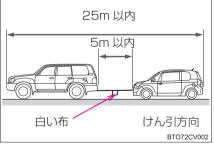
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンがまわっているのに車が動かない
- 異常な音がする

けん引されるとき

1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

2 ロープの中央に白い布を付ける

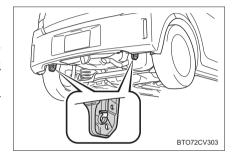
布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上

3 エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジン スイッチを“ACC”★または“ON”★、またはアクセサリーモード★またはイグニッション ON モード★にしてください。

4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

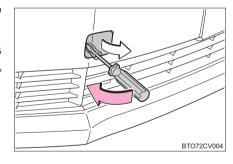
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

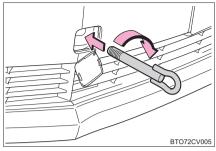
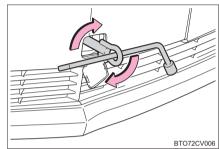
緊急時のけん引

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張りだしてもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方

1 けん引フックを取り出す（→P. 316, 326）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**けん引するとき**

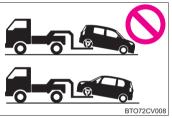
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと駆動装置が損傷したり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

FF 車（前輪駆動車）：前輪が地面に付いた状態でうしろからけん引しない

BTO72CV007

4WD 車（4輪駆動車）：前輪または後輪のいずれかの車輪が地面に付いた状態でけん引しない

けん引するときは、必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

BTO72CV008

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進は避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたるおそれがあります。

●エンジン スイッチを “LOCK”★または OFF★にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■Stop & Start システム装着車をけん引するときは（Stop & Start システム装着車）

4 輪すべてを接地した状態でけん引しないでください。4 輪とも持ち上げた状態で運搬するか、前輪を持ち上げた状態でけん引してください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯 エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジンの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。 (→P. 173)
4WD (点灯)	**4WD 警告灯★** 4WD システムの異常 (点滅したとき →P. 311)
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常
A OFF (点滅)	**Stop & Start キャンセル表示灯★** Stop & Start システムの異常 (Stop & Start システム非作動時は点灯します。→P. 166)
	スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★ **(警告ブザー)** ・スマートエントリー＆スタートシステムの異常（黄色点滅） ・ステアリングロックシステムの異常（緑色に速点滅）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約6.1L以下になった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席･助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
4WD （点滅）	**4WD警告灯★** 駆動系の発熱 （点灯のみのとき →P. 310）	スピードを落として低速走行する、またはエンジンをかけたまま停車する。

※1 半ドア走行時警告ブザー：
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/hをこえたときにブザーが鳴ります。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約20km/h以上になると警告ブザーが1回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり90秒間鳴ります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** シフトレバーが P 以外の状態で、エンジン スイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを車内にもどす
1 回	3 回	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** シフトレバーが P の状態で、エンジン スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉され電子キーを持ち出した	エンジン スイッチを OFF にしたあと、電子キーを車内から持ち出す
			スマートエントリー&スタートシステム表示灯 エンジン スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
1 回	連続音(5 秒間)	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** エンジン スイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	エンジン スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	—	(15秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯してエンジンを始動する
9回	—	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
1回	—	(15秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する(→P. 268)
1回	—	(15秒間緑色に速点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** ステアリングロックが解除できなかった	ステアリングロックを解除する(→P. 144)
1回	—	(30秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** ・メカニカルキーで解錠してエンジン スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・エンジン スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが2回連続で続いた	ブレーキペダルを踏みながら、電子キーでエンジン スイッチにふれる(→P. 343)

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 264 を参照してください）

警告

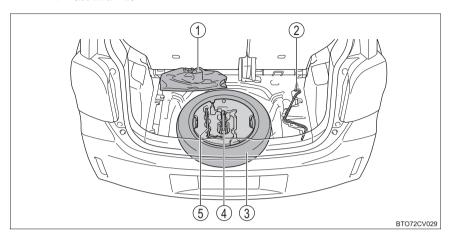
■**タイヤがパンクしたときは**

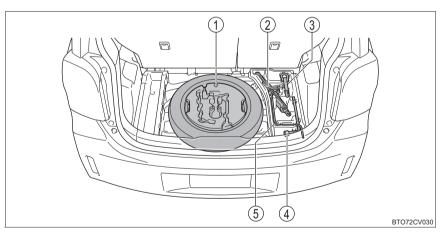
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置

▶ ＦＦ 車（前輪駆動）

① ジャッキ
② ジャッキハンドル
③ 応急用タイヤ
④ けん引フック
⑤ ホイールナットレンチ

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

① 応急用タイヤ
② ジャッキ
③ けん引フック
④ ホイールナットレンチ
⑤ ジャッキハンドル

警告

■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

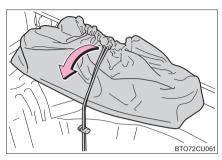
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

▶ FF 車（前輪駆動）

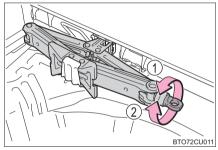
1 デッキボードを取りはずす（→P. 247）

2 袋をはずす

BTO72CU061

3 ジャッキをゆるめて取りはずす

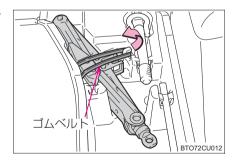
① ゆるむ

② 締まる

BTO72CU011

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

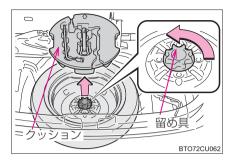
1 デッキボードを取りはずす（→P. 247）

2 ゴムベルトをはずし、ジャッキを取りはずす

BTO72CU012

応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→P. 247）

2 クッションを取りはずし、留め具を取りはずす

BTO72CU062

⚠ 警告

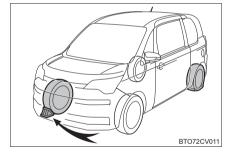
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

BTO72CV011

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

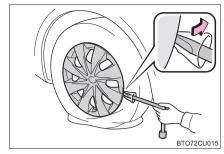
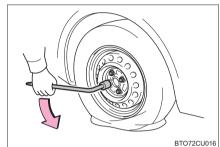
2 フルホイールキャップをはずす*

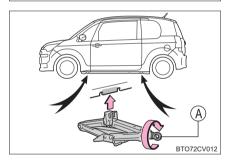
*スチールホイールのみ

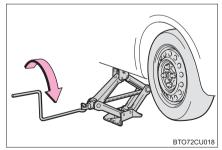
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

BTO72CU015

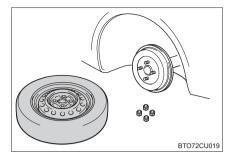
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

BTO72CU016

4 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

BTO72CV012

5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

BTO72CU018

6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。

BTO72CU019

警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

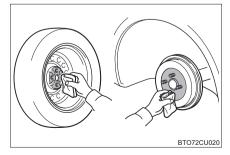
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

BTO72CU020

2 応急用タイヤを取り付け、タイヤがガたつかない程度まで手でナットを仮締めする

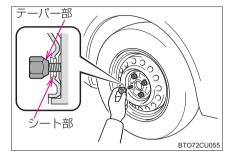
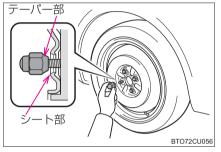
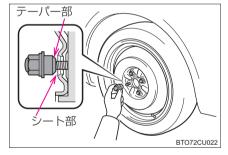
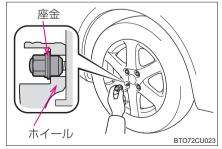
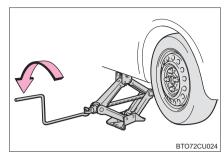
フルホイールキャップ装着車のスチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

フルホイールキャップ非装着車のスチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

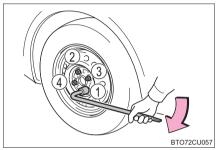
アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

3 車体を下げる

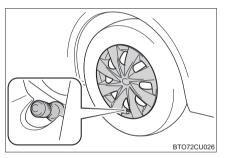
BTO72CU024

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）

BTO72CU057

5 フルホイールキャップを取り付ける*

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてフルホイールキャップを確実に取り付ける。

*スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

BTO72CU026

6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P. 361）

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

⚠警告

■応急用タイヤを使用するとき

- 必ず指定サイズを使用してください（→P. 361）
- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・EPS
・TRC
・VSC

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

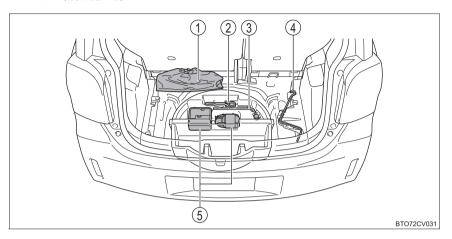
■タイヤがパンクしたときは

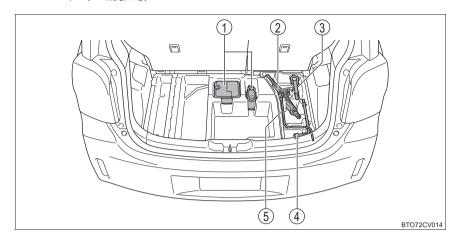
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

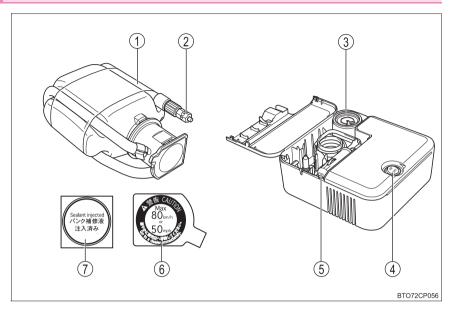
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ FF 車（前輪駆動）

① ジャッキ※
② けん引フック
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキハンドル
⑤ タイヤパンク応急修理キット

※ジャッキの使い方（→P. 320）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

① タイヤパンク応急修理キット
② ジャッキ※
③ けん引フック
④ ホイールナットレンチ
⑤ ジャッキハンドル

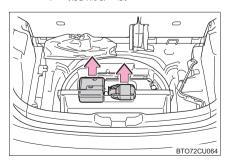
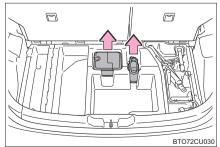
※ジャッキの使い方（→P. 320）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ 速度制限ラベル
⑦ パンク補修液注入済ラベル

応急修理キットの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→P. 247）

2 応急修理キットを取り出す

▶ FF 車（前輪駆動）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

ジャッキの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→P. 247）

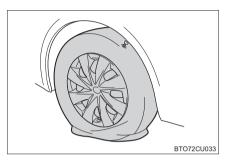
2 ジャッキを取り出す（→P. 318）

応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

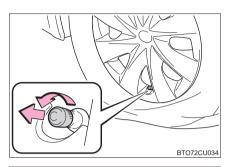
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

BTO72CU033

応急修理するとき

1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

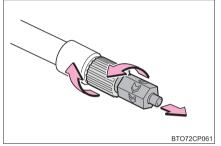
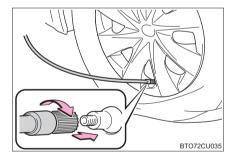
BTO72CU034

3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

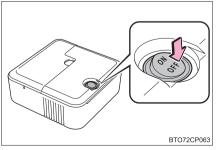
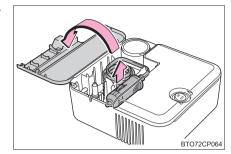
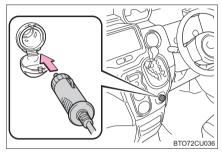
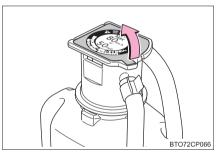
ボトルに同封されているパンク補修液注入済みラベルは指定の位置へ貼り付けます。(**9**へ) 空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

BTO72CP061

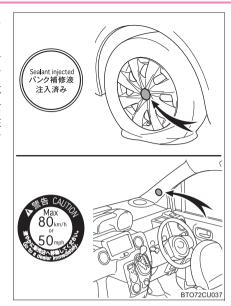
4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

BTO72CU035

5 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する

BTO72CP063

6 コンプレッサーの電源プラグをはずす

7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 241）

8 速度制限ラベルをはがす

9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

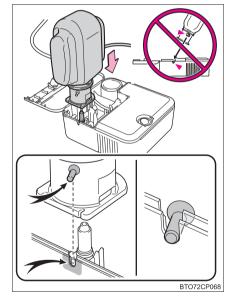
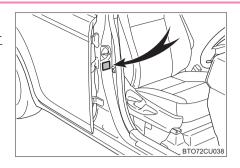
BTO72CU037

10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

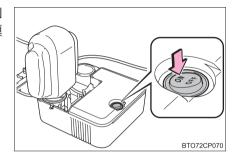
BTO72CP068

11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 265)

BTO72CU038

12 エンジンを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

BTO72CP070

14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① スイッチ“ON”直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

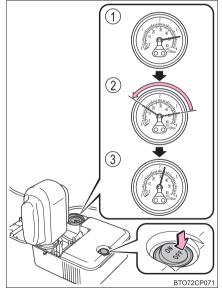
② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを“OFF”にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 361)

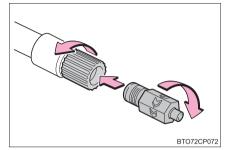
BTO72CP071

15 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

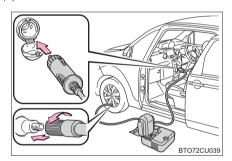
17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。

BTO72CP072

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

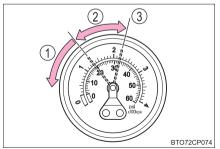
20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

BTO72CU039

21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間“ON”にし、“OFF”にして空気圧を確認する

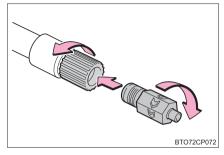
① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：**22** へ

③ 空気圧が指定空気圧（→P. 361）の場合：**23** へ

BTO72CP074

22 コンプレッサーのスイッチを “ON” にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速。急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

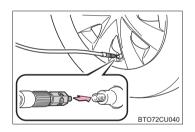
●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く

3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

●応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 138,141）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 138,141）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。
  （→P. 60）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 344）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。
  異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 340）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 344)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジン スイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジン スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

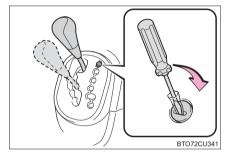
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

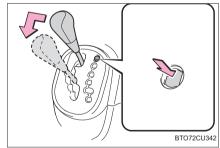
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジン スイッチを“ACC”★またはアクセサリーモード★にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

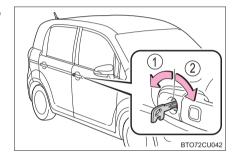
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 79）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 73）を使って次の操作ができます。

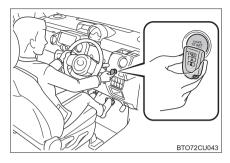
① 全ドア解錠

② 全ドア施錠

エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジン スイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

BTO72CU043

3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

4 エンジン スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてエンジン スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 268)

■ モードの切りかえ

エンジン始動の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジン スイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 142)

バッテリーがあがったときは

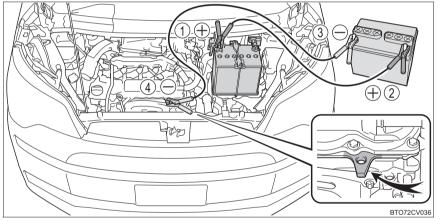
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける

→P. 258

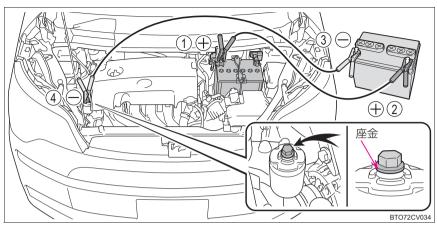
2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

▶ 1NR-FE エンジン搭載車

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

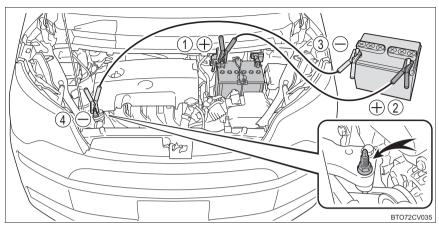
▶ 1NZ-FE エンジン搭載車（ＦＦ 車（前輪駆動））

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

ボルトの座金部に確実につないでください。

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車（4WD 車（4 輪駆動））

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 スマートエントリー&スタートシステム装着車は、エンジン スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん "ON"★、またはイグニッション ON モード★にしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にエンジン　スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジン スイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジン スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーがあがってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

■**車の損傷を防ぐために**

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが加熱し、火災の原因になるおそれがあります。

⚠注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

高水温警告灯（→P. 309）が点滅または点灯した、エンジン出力が低下した（スピードが出ないなど）、またはエンジンルームから蒸気が出ているときは、オーバーヒートの可能性があります。
このような場合、次の手順に従って対処してください。

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

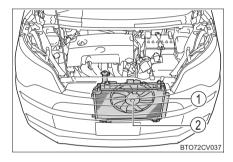
2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

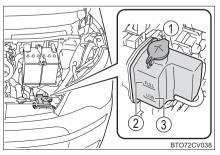
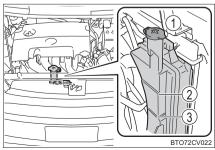
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

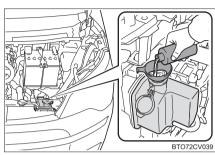
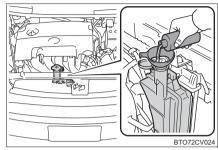
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）

▶ 1NR-FE エンジン搭載車

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 359）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

▶ 1NR-FE エンジン搭載車

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠警告

■エンジンルーム点検中の事故ややけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

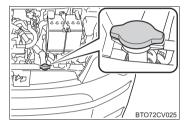
●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▶ 1NR-FE エンジン搭載車

BTO72CV025

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

BTO72CV026

⚠注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを停止する
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除く
3. タイヤの下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

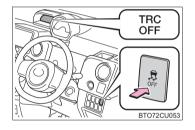
知識

■脱出しにくいとき

TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときにTRCを停止することにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには を押す

BTO72CU053

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	42

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">指定銘柄</th><th colspan="3">容量［L］（参考値※1）</th></tr>
<tr><th>エンジン</th><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 0W-20※2
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20
トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-20
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20
トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-30
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30
トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 10W-30
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30</td><td>1NR-FE</td><td>3.2</td><td>3.4</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE</td><td>3.4</td><td>3.7</td></tr>
</table>

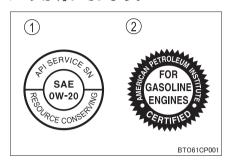
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機あとに停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

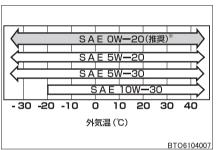
※2 0W-20 は、新車時に充填されており、上記表の銘柄の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上図の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	1NR-FE	4.7
	1NZ-FE	5.0

トランスミッション

指定銘柄	エンジン	駆動方式	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　FE	1NR-FE	FF 車	6.42
	1NZ-FE	FF 車	7.47
		4WD 車	7.88

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE85W-90）	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］ （参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE85W-90）	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	78 以上

※ エンジン回転時に 300N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 200N（20.4kgf）のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	
寒冷地仕様車を除く	1.8
寒冷地仕様車	2.3

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量 オルタネーター ウォーターポンプ クランクシャフト エアコンコンプレッサー CTN61AE021 押力 98N（10kgf）（冷間時）	1NR-FE	自動調整式
	1NZ-FE（F F 車（前輪駆動））	自動調整式
	1NZ-FE（4WD 車（4 輪駆動））	12.5 ～ 13.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm²）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	165/70R14 81S	14 × 5J	240（2.4）	
	175/65R15 84H	15 × 5J	230（2.3）	
応急用タイヤ★	T125/70D16 96M	16 × 4T	420（4.2）	

★：仕様により異なる装備やオプション装備

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：ＨＢ3）	60
	ハロゲンヘッドランプ装着車 ロービーム（バルブタイプ：H11）	55
	ディスチャージヘッドランプ装着車 ロービーム （ディスチャージヘッドランプ：D4S）	35
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5※2
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1	21
	尾灯	5
	制動灯	ＬＥＤ※3
	後退灯	16
	番号灯	5
	ハイマウントストップランプ	ＬＥＤ※3
車内	パーソナルランプ／インテリアランプ（前側）	5
	インテリアランプ（うしろ側）	8

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

※2 サイド方向指示灯／非常点滅灯の電球とレンズは一対のため、電球を取りはずすことができません。交換が必要なときはトヨタ販売店で交換してください。

※3 LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発行素子です。

車両仕様

<table>
<tr><th>型式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th></tr>
<tr><td>NSP140</td><td>1NR-FE
（1.3L ガソリン）</td><td rowspan="2">FF（前輪駆動）</td></tr>
<tr><td>NCP141</td><td rowspan="2">1NZ-FE
（1.5L ガソリン）</td></tr>
<tr><td>NCP145</td><td>4WD（4 輪駆動）</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム★（→P. 75）	スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	バックドアの解錠	長押し	2回押し
			なし

★：仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック (→P. 84) (スマートエントリー&スタートシステム装着車)	ワイヤレス機能	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	作動の合図（ブザー音量）	レベル 7	レベル 0 ～ 7
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	パワースライドドアの操作	ドア解錠時に長押し	ドア施錠時に長押し
			ドア解錠時に 2 回連続押し
			ドア施錠時に 2 回連続押し
			ドア解錠時に単押し
			なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック（→P. 84）（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）	ワイヤレス機能	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
	パワースライドドアの操作	ドア解錠時に長押し	ドア施錠時に長押し
			ドア解錠時に2 回連続押し
			ドア施錠時に2 回連続押し
			ドア解錠時に単押し
			なし
ランプ自動点灯・消灯システム★（→P. 152）	ライトセンサーの感度	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め
エコドライブインジケーターランプ（→P. 70）	エコドライブインジケーターランプの作動	ON	OFF

★：仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション（→P. 219）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠後の作動	あり	なし
	エンジン スイッチ“LOCK”後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）	あり	なし
	エンジン スイッチOFF後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	あり	なし
パワースライドドア（→P. 91）	パワースライドドアスイッチによる操作	0.5 秒長押し	単押し
	閉作動中のブザー吹鳴	あり	なし

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」･「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア (→P. 91)	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P. 93

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→P. 73）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P. 74）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→P. 268）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジン スイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときはエンジン スイッチを OFF にしてください（→P. 142）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→P. 79, 85）

運転席側リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→P. 89）

スライドドアが全開にならない

● 中間ストッパーがかかっていませんか？
スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。ドアガラスおよび給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→P. 92）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

● シフトレバーは P になっていますか？（→P. 138）
● ステアリングロックされていませんか？ （→P. 139）
● バッテリーがあがっていませんか？ （→P. 344）

エンジンがかからない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

● ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジン スイッチ押していますか？ （→P. 141）
● シフトレバーは P になっていますか？（→P. 144）
● キーが車内の検知される場所にありますか？ （→P. 77）
● ステアリングロックされていませんか？ （→P. 144）
● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P. 343）
● バッテリーがあがっていませんか？ （→P. 344）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチの位置が“ON”になっていますか？

エンジン スイッチの位置が“ON”でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 341）

● スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジン スイッチはイグニッション ON モードになっていますか？

エンジン スイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 341）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● スマートエントリー&スタートシステム非装着車
盗難防止のため、キーをエンジン スイッチから抜くとロックされます（→P. 138）

● スマートエントリー&スタートシステム装着車
盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P. 144）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P. 124）

エンジン スイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P. 143）

警告音が鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P. 374）をご確認ください。

警告灯が表示されたとき

● 警告灯が表示されたときは、P. 309 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P. 315）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P. 325）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P. 352）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 78
	エンジン スイッチにキー★が挿してある	P. 139
	シフトポジションが P 以外になっている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 312
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 154
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P. 313
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 78
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 78

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 311
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 309
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 311
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 133

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

アルファベット順さくいん

五十音順さくいん

あ

い

う

え

お

か

き

く

さ

し

す

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

に

ぬ

ね

は

へ

ほ

ま

み

め

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口
P. 258	P. 160

BTOPCCV001

ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 258	P. 162	P. 361

項目	内容
燃料の容量（参考値）	42L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 356
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 361
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 1NR-FE エンジン車： 3.2L 1NZ-FE エンジン車： 3.4L オイルとフィルター交換時 1NR-FE エンジン車： 3.4L 1NZ-FE エンジン車： 3.7L
エンジンオイルの種類	トヨタ キヤッスル モーターオイル ・ SN 0W-20（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-20（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・ SN 5W-30（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・ SN 10W-30（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ノ-51

M　52D99
01999ー52D99
ZB-2013年３月27日
2013年１月31日　初版
2013年４月１日　２版
スペイド